

次期計画・中期プラン編素案（案）

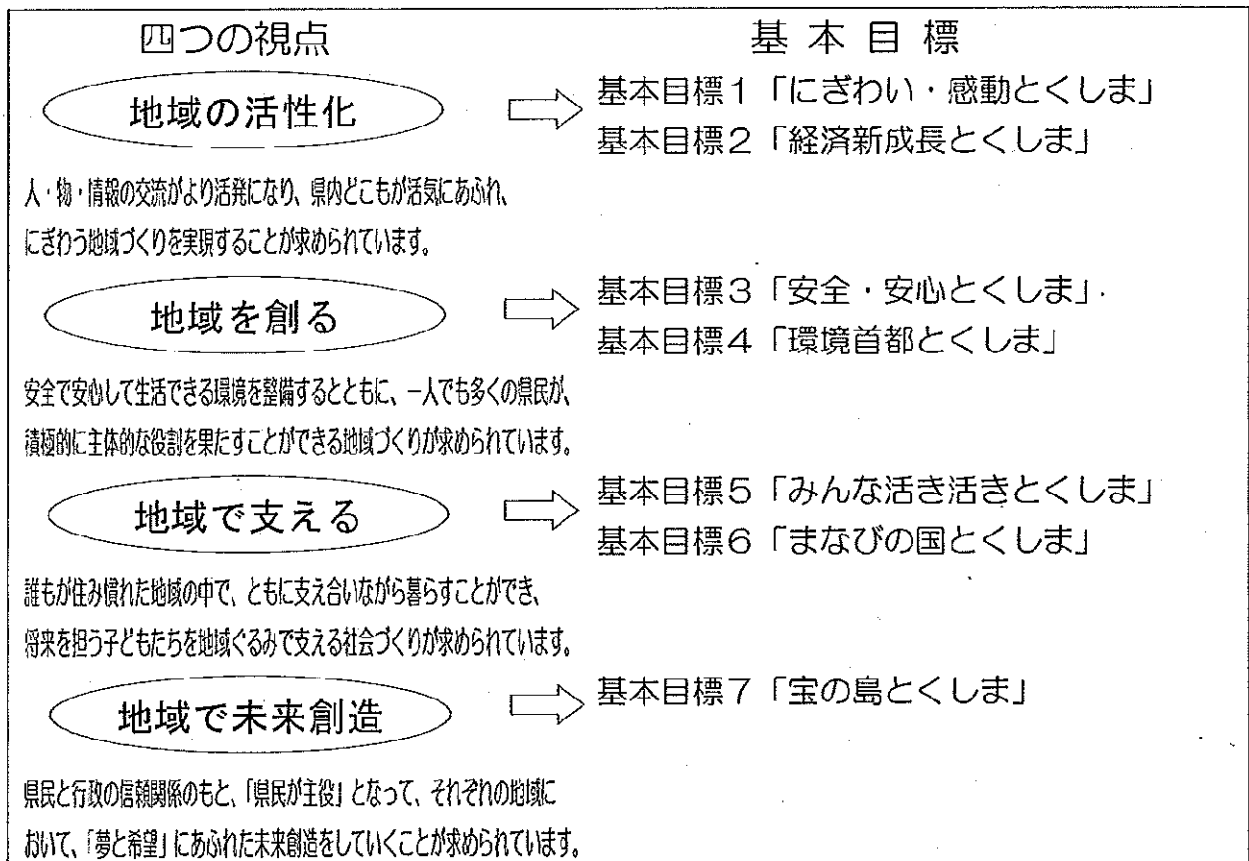
総合計画審議会第4回未来創造部会
（平成23年3月16日開催）

中期プラン・行動計画編

中期プラン編は、「計画の基本理念」及び長期ビジョン編においてお示した「徳島の目指すべき将来像」を実現するために、手の届く未来である「10年程度先」を見据えた「近未来の成長戦略」を掲げるものです。

行動計画編は、中期プラン編で掲げた「近未来の成長戦略」を実現するために、今後4年間に取り組むべき重点施策を明らかにするものです。

「地域主権新時代」を迎え、地域から「幸福あふれる徳島」を実現するため、以下の四つの視点の下、七つの「基本目標」を定め、その実現を目指します。



基本目標を達成するために効果的な施策を重点的に実施することとし、各基本目標ごとにそれぞれ五つから七つの「重点戦略」を設定しています。

行動計画編では、具体的な数値目標や達成年度などの工程を明示しています。

第1 基本目標

計画の基本理念に基づき、以下の七つの基本目標の達成を目指します。

基本目標1 「にぎわい・感動とくしま」 ～地域の活性化～

～「四国と近畿の結節点」に位置する「地の利」と魅力ある地域資源を活かし、にぎわう地域づくりを推進するため、人・物・情報の活発な交流を支える基盤整備を図るとともに、観光をはじめ国内外との交流、文化立県・スポーツ王国づくりを加速し、活気にあふれる「にぎわい・感動とくしま」の実現を目指します～

●重点戦略

1 にぎわい・交流とくしまづくり

本県の地理的優位性を活かし、人・物・情報の交流を活発化し、交流人口が増加するよう、高速交通ネットワークの整備をはじめ、新たに整備された交流拠点（空港・港湾）や県内全域に張り巡らされた光ファイバー網の活用等により、県内どこでも活気にあふれ、にぎわう地域づくりを推進します。

2 観光立県とくしまづくり

徳島ならではの魅力を磨き上げ、効果的な情報発信を行うとともに、地域の魅力を活かした観光地づくりや、地域資源を活用した体験型観光の推進などにより、県内外の交流が活発になる「観光立県とくしま」を目指します。

3 国際交流立県とくしまづくり

国際交流により、経済、文化、教育、観光面などの交流を促進するとともに、多文化共生のまちづくりを推進し、「地域からの国際化」を実現します。

4 文化立県とくしまづくり

芸術文化に触れることを通じ、豊かな感性を養うとともに、徳島の風土や歴史に根ざした「阿波文化」を再認識し、豊かで柔軟な発想を持って徳島らしい文化の創造に取り組み、文化資源をさまざまな分野で地域の活性化に活用することにより、「文化立県とくしま」を目指します。

5 スポーツ王国とくしまづくり

プロスポーツチームの活用などを通じたにぎわいの創出や、競技力の強化を進めるとともに、子どもから大人まで、県民すべてが身近にスポーツを楽しめる「生涯スポーツ社会」の実現を目指します。

基本目標2 「経済新成長とくしま」

～地域の活性化～

～厳しい経済情勢を克服するとともに、「徳島の強み」を活かした時代を先取る産業の創出・育成、地域産業の基盤強化、もうかる農林水産業の実現、安定した雇用の確保やあらゆる人が働きやすい職場環境の整備を推進し、世界に誇る「とくしまブランド」が牽引する、未来に伸びゆく「経済新成長とくしま」の実現を目指します～

●重点戦略

1 経済新成長とくしまづくり

百年に一度と言われる世界的な金融・経済危機から脱却し、県内経済状況の回復を図るため、産業・経済を支える社会資本整備やグローバル化への支援、農林水産業の発展に資する施策の推進など、「経済新成長の礎」を築く取組を進めます。

2 産業活性化とくしまづくり

厳しい経済情勢や危機事象等のピンチをチャンスと捉え、技術開発や人材育成、市場開拓、販売促進などの総合的な支援を図ることにより、しっかりとした産業づくりを推進します。

3 創業応援とくしまづくり

創業支援、ベンチャー企業の育成・支援、経営革新の支援等により、新たな分野に挑戦する起業家やベンチャー企業が、徳島から次々と誕生し続ける活力ある産業づくりを目指します。

4 新産業創出とくしまづくり

産学官連携による研究開発を推進するとともに、本県の特長、ポテンシャル（潜在能力）を活かし、時代を先取る新たな産業の創出・集積を図ります。

5 しごとイキイキとくしまづくり

本県の強みを活かした競争力のある産業の企業誘致を進めるなど、雇用の増加や維持・安定に努めるとともに、誰もが働きやすい環境整備を進めます。

6 ひろがるブランドとくしまづくり

「安全・安心」に裏付けられた徳島産農林水産物の消費の輪を、国内外へ向け、さらに拡大することにより、世界に誇る「とくしまブランド」を確立し、「儲かる農林水産業」を推進します。

7 次世代を支える林業とくしまづくり

川上から川下までが一体となった木材の生産・流通・加工体制の整備をさらに推進し、木材自給率の向上を図るとともに、国内はもとより国外に向けた積極的な販売促進に取り組みます。

基本目標3 「安全・安心とくしま」

～ 地域を創る～

～あらゆる危機事象への迅速かつ的確な対応に向け、南海地震をはじめとした自然災害や新型インフルエンザへの対策、地域医療の再生に向けた抜本的な対策、消費者被害対策や体感治安の向上を進め、誰もが安心して暮らせる「安全・安心とくしま」の実現を目指します～

●重点戦略

1 安全・安心とくしまづくり

地震をはじめとする、県民の生命、身体、財産を脅かすあらゆる危機事象に迅速かつ的確に対応できる体制整備を進めるとともに、犯罪や交通事故から県民を守り、安全で安心できるくらしの実現を目指します。

2 いのちを守るとくしまづくり

今後30年以内に60%程度の確率で発生が予想されている南海地震をはじめ、最近の異常気象や土砂災害などの自然災害から、県民の生命、身体、財産を守るため、防災対策を推進し、「災害に強いとくしま」を実現します。

3 くらしを守るとくしまづくり

消費者被害対策の充実や消費者教育を推進するとともに、食の安全・安心の確立に向けた取組を総合的に推進し、県民が安全で、安心して暮らせる社会の実現を目指します。

4 しっかり医療とくしまづくり

誰もが、いつでもどこでも安心して質の高い医療サービスを受けられるよう、医療体制を整備し、県民が安全で、安心して暮らせる社会の実現を目指します。

5 生涯健康とくしまづくり

子どもの時からの健康支援や生活習慣病の予防、感染症対策の充実等を図り、県民一人ひとりが健康やかで心豊かに生活できるよう、「生涯健康とくしまづくり」を推進します。

基本目標4 「環境首都とくしま」

～ 地域を創る～

～地球環境にやさしい社会づくりに向け、低炭素社会、や自然共生社会の形成をはじめ地球温暖化対策に正面から対応するとともに、豊かな森林づくり、潤いあふれる生活環境づくりなど、「徳島ならではの」先進的な取組を推進し、21世紀「環境の世紀」をリードする「環境首都とくしま」の実現を目指します～

●重点戦略

1 環境首都とくしまづくり

すべての県民が、高い環境意識を持って行動するとともに、県民、事業者、行政等が連携した取組を進めることにより、社会経済活動に伴う環境への負荷をできる限り少なくする持続可能な地域社会づくりを目指します。

2 循環型社会とくしまづくり

県民一人ひとりが「環境にやさしい暮らし」を心がけ、廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用を促進することにより、限りある資源が循環する社会づくりに取り組みます。

3 安全で快適なとくしまづくり

豊かな自然環境に配慮した美しい景観づくりや、きれいな水環境の保全に向けた取組を推進するとともに、県民の健康を守り、良好な生活環境を保つため、大気汚染や有害化学物質などの生活環境問題に取り組み、「安全で快適なとくしまづくり」を推進します。

4 自然共生社会とくしまづくり

本県の豊かで貴重な自然を将来の世代に引き継いでいくため、適切に保護・保全するとともに、自然の再生や活用を図るなど、自然との共生を目指します。

5 豊かな森林とくしまづくり

地球温暖化防止や水源涵養に貢献し、人々の安らぎの場、多様な動植物の生息場所にもなる豊かな森林を将来の世代に引き継ぐため「豊かな森林とくしまづくり」を推進します。

基本目標5 「みんな生き活きとくしま」

～地域で支える～

～ぬくもりとやさしさがあふれる「福祉社会の創造」に向け、子育て支援や高齢者・障害者福祉の充実、ユニバーサルデザインの浸透などにより、年齢、性別、国籍、障害の有無に関わりなく、誰もが未来への明るい夢と希望を育みながら、生き活きと自己実現できる「みんな生き活きとくしま」の実現を目指します～

●重点戦略

1 安心子育てとくしまづくり

子どもたちを大切に育み、子育ての喜びを分かち合える社会を目指して、県民・事業者・行政が一体となって取り組むことにより、子どもを生み育てることに夢を持てる社会づくりを推進します。

2 高齢者生き活きとくしまづくり

本格的な高齢社会においても、すべての県民が安心して高齢期を迎えられ、生涯にわたり健康で生きがいを持ち、安心して暮らせる環境づくりを推進します。

3 障害者生き活きとくしまづくり

障害の種別に関わらず、障害者が必要なサービスを迅速かつ的確に提供できる体制づくりを進め、障害の有無に関わらず、すべての人が地域で安心して暮らせる社会の実現を目指します。

4 ユニバーサルとくしまづくり

自然にやさしい、利用者の視点に立った公共事業を推進するなど、ユニバーサルデザインの考え方に基づき、障害の有無、年齢、性別、国籍等に関わらず、地域に暮らすすべての人が住みやすいまちづくりを推進します。

5 共助・共生とくしまづくり

地域住民が参加する様々な共助の仕組みを強化し、高齢者や障害者はもとより、地域に暮らすすべての人が住み慣れた地域の中で、ともに支え合いながら安心して暮らしていける、こころの通いあう安らぎと共生の地域づくりを推進します。

基本目標6 「まなびの国とくしま」

～ 地域で支える～

～21世紀を担う人材創造に向け、学力・体力向上対策や特別支援教育の充実、生涯を通じて意欲的に学習できる環境整備、青少年の健全育成など、「徳島らしさ」をふんだんに盛り込んだ創意工夫を凝らしながら、知性と体力、感性にあふれ、自立した人材を育成する「まなびの国とくしま」の実現を目指します～

●重点戦略

1 まなびの国とくしまづくり

「確かな学力」・「豊かな心」「健やかな体」の育成等を通じ、将来のとくしまを担う子どもたちが、郷土に誇りを持ち、社会の一員として自立した、たくましい人材となるよう、特色と魅力ある教育を総合的かつ効果的に推進します。

2 個性尊重とくしまづくり

特別な支援を必要とする幼児・児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな支援・教育を進め、「個」を尊重し「自立」を支援する「特別支援教育の充実」を図ります。

3 みんなのまなびやとくしまづくり

地域に根ざした教育環境の整備を図ることにより、地域に愛され、地域に信頼され、地域ぐるみで子どもたちを支える、新たな時代に対応した安全・安心で活力あふれる学校づくりを推進します。

4 生涯まなびとくしまづくり

生きがいや地域社会への貢献につながる生涯学習の推進により、あらゆる世代がそれぞれのニーズに応じた「学び」を享受できる機会づくりを進めます。

5 青少年育成とくしまづくり

21世紀を担う青少年が夢や目標を持ち、自立した人間として成長するよう、健全な育成を図るとともに、若者がその優れた能力や個性を生き活きと発揮することができる環境づくりを進めます。

基本目標7 「宝の島とくしま」

～ 地域で未来創造 ～

～誰もが自らの幸福を享受できる社会の実現に向け、公正・公平でオープンな県政を推進するとともに、人権が尊重される社会づくり、NPOとの協働による地域づくりはもとより、「関西広域連合」による全く「新しい国づくり」を先導し、可能性に満ちあふれる未来を創造する「宝の島とくしま」の実現を目指します～

●重点戦略

1 誰もが主役とくしまづくり

同和問題をはじめ、女性、子ども、高齢者、障害者、外国人などの様々な人権問題の解決に向け、積極的な取組を行い、すべての人の人権が尊重される社会の実現を目指すとともに、家庭・地域生活や職業生活において、男女がともに支え合い、協力し合う「男女共同参画立県とくしま」の実現を目指します。

2 協働立県とくしまづくり

NPOやボランティア、各種団体、企業など、多様な主体が行政と共感し、役割分担しながら、連携・協力して地域の課題に柔軟かつきめ細やかに対応する地域自立型の社会を目指すため、「協働立県とくしまづくり」を推進します。

3 活力みなぎるとくしまづくり

移住・交流の促進や子育て環境・雇用対策の充実などにより、自立的で活気ある地域づくりを推進するとともに、「関西広域連合」による取組や規制緩和の活用等を進めることにより、地域のにぎわいを創出し、地方が「自らの権限と責任」のもと、「地方のことは地方で決める」ことができる「地域が主役の社会」の実現を目指します。

4 笑顔あふれるとくしまづくり

魅力あるイベントの誘致・開催を目指すとともに、徳島ならではの地域資源を活かしたイベントの充実を図り、笑顔と活気があふれるまちづくりを進めます。

5 希望に向かうとくしまづくり

「県民の目線で仕事をする」職員の意識改革をさらに進めるとともに、徹底した行財政構造改革を加速させることにより、行政と県民の信頼関係を基盤とした「希望に向かうとくしまづくり」を実現します。

重点戦略の体系

以下の重点戦略の体系により施策を展開します。

基本目標	重点戦略
1 「にぎわい・感動とくしま」 ～地域の活性化～	1 にぎわい・交流とくしまづくり
	2 観光立県とくしまづくり
	3 国際交流立県とくしまづくり
	4 文化立県とくしまづくり
	5 スポーツ王国とくしまづくり
2 「経済新成長とくしま」 ～地域の活性化～	1 経済新成長とくしまづくり
	2 産業活性化とくしまづくり
	3 創業応援とくしまづくり
	4 新産業創出とくしまづくり
	5 しごとイキイキとくしまづくり
	6 ひろがるブランドとくしまづくり
	7 次世代を支える林業とくしまづくり
3 「安全・安心とくしま」 ～地域を創る～	1 安全・安心とくしまづくり
	2 いのちを守るとくしまづくり
	3 くらしを守るとくしまづくり
	4 しっかり医療とくしまづくり
	5 生涯健康とくしまづくり
4 「環境首都とくしま」 ～地域を創る～	1 環境首都とくしまづくり
	2 循環型社会とくしまづくり
	3 安全で快適なとくしまづくり
	4 自然共生社会とくしまづくり
	5 豊かな森林とくしまづくり
5 「みんな生き生きとくしま」 ～地域で支える～	1 安心子育てとくしまづくり
	2 高齢者生き生きとくしまづくり
	3 障害者生き生きとくしまづくり
	4 ユニバーサルとくしまづくり
	5 共助・共生とくしまづくり
6 「まなびの国とくしま」 ～地域で支える～	1 まなびの国とくしまづくり
	2 個性尊重とくしまづくり
	3 みんなのまなびやとくしまづくり
	4 生涯まなびとくしまづくり
	5 青少年育成とくしまづくり
7 「宝の島とくしま」 ～地域で未来創造～	1 誰もが主役とくしまづくり
	2 協働立県とくしまづくり
	3 活力みなぎるとくしまづくり
	4 笑顔あふれるとくしまづくり
	5 希望に向かうとくしまづくり
	合計37重点戦略

I にぎわい・感動とくしま

1 にぎわい・交流とくしまづくり①

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 空港拡張で大型機の就航が可能となり、新ターミナルのアクセスが強化され、交流・物流の拠点となっています。また、ソウル便、上海便などの海外定期航路が開設され、日帰り海外出張が可能となっています。
- ◇ 徳島小松島港は、西日本地域との連携の中で国際物流・交流拠点へ発展しています。
- ◇ 四国内の高規格幹線道路網の整備が進み、近畿圏や四国他県と一体となった快適な高速交通ネットワークが充実しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 沖縄や上海、ソウルへのチャーター便、定期便の就航により、地域の発展につなげる。
- 防災・救急医療対策や地域の活力を生み出す新たな産業振興、地域間の交流促進、観光誘客のため、四国8の字ネットワークの早期整備を目指す。
- 現在、徳島市は経済センター、徳島テクノスクールの沖洲移転、東環状道路、新たな耐震岸壁の整備など、東に向かって発展し、基盤整備が進んでいるため、この地区を本県発展の基盤として焦点をあてその方向性を描く必要がある。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

交流ひろがる快適・交通ネットワーク

- ◎ 国内では東京便、福岡便に次ぐ国内主要都市への航路が開設されるとともに、国外との定期航路の開設やチャーター便の充実により、県民の利便性が向上し、国内外から多くの観光客が徳島を訪れています。
- ◎ 沖洲地区に「四国横断自動車道徳島東1C」が設置され、東京～北九州を結ぶ長距離フェリーと四国横断自動車道が直結することにより、徳島県は陸路だけではなく、「海路においても四国の玄関口」となり、地域経済の活性化や観光振興が図られています。
- ◎ 徳島小松島港において、耐震強化岸壁が整備され、大規模地震が発生した際の緊急救援物資等の輸送拠点として重要な役割を担っています。
- ◎ 四国横断自動車道（鳴門～徳島間）の供用により本四道路と徳島自動車道が直結し、四国の玄関口としての位置づけが確立されるとともに、四国横断自動車道（徳島～阿南間）の供用や阿南安芸自動車道の整備促進により「四国8の字ネットワーク」の早期連結が具体化するなど、高速交通ネットワークの整備が促進され、近畿～四国の交流拠点となっています。
- ◎ 本四道路を含む高速道路の料金は全国一律の平等な料金となっており、空港や港湾との連携によって多様な輸送形態が生まれ、輸送コストにおけるハンディキャップが解消し、産業活動による競争力が強化され企業立地が進むとともに、観光客が大幅に増加しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 国内外の新規路線開設に向け、チャーター便の実績を重ねるとともに、効果的なエアポートセールスを推進します。
- ◎ 物流の効率化に向けた船舶の大型化への対応と大規模地震発生時における緊急物資等の海上輸送路確保のため、新たな岸壁の整備を推進します。
- ◎ 高速交通ネットワークの充実を図るため、四国横断自動車道（鳴門～阿南間）や阿南安芸自動車道の整備促進に取り組みます。
- ◎ 本四道路を含む高速道路の全国一律料金制度の実現に向け取り組みます。

I にぎわい・感動とくしま

1 にぎわい・交流とくしまづくり②

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 高齢者も不便を感じず、徒歩や自転車で暮らせるような利便性、快適性に配慮したまちづくりが進んでいます。
- ◇ 街や周辺地域では、自然や歴史・文化に根ざした景観整備が行われ、個性的で魅力的な地域が形成され、市街地では緑豊かな美しい都市環境の中で快適な都市生活が実現しています。
- ◇ 豊かな水辺空間が各地に整備され、憩いの場、環境学習の場として多くの人々が利用しています。
- ◇ コミュニティバスや乗り合いタクシーなど、誰もが使いやすい公共交通体系ができています。
- ◇ 鉄道の本数増やスピードアップにより、マイカー通勤から利用転換が図られ、通勤時間帯の渋滞が解消されています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 道路の多車線化により交通渋滞の解消を目指す。
- 路線バスの不採算路線をコミュニティバス化することなどにより、車（免許）を持たずとも、域内の移動に不自由がない徳島を目指す。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

快適な公共交通と都市生活

- ◎ 公共交通機関が利用者の実情に合わせて運行されるとともに、誰もが住み慣れた地域、住みたい地域で安心して快適に暮らすことができるよう、地域内を移動する手段が整備されています。
- ◎ 鉄道の高架化工事と徳島市のまちづくりが一体となって進むとともに、放射・環状道路などの整備が進み、交通の円滑化が図られ、都市部での交通渋滞が大幅に緩和されています。
- ◎ 人口減少・少子高齢化が進行してる本県において、地域の実情に応じた安全で快適に暮らせる効率的な都市形成が推進されています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 公共交通機関利用促進のPR等を通して、公共交通を必要不可欠な地域資源として、みんなで支えていくという意識を高めます。
- ◎ 地域住民、市町村、NPO、交通事業者等の多様な関係者により、地域に根ざした交通体系のあり方を検討し、地域のニーズに即した移動手段を確保する仕組みを整えます。
- ◎ 踏切の除去により道路交通の円滑化を図る鉄道高架事業を、徳島市のまちづくりと一体となって推進するとともに、徳島市の中心部へ集まる交通量の分散や交通容量の拡大を図る放射・環状道路などの道路網の整備を併せて進めることにより、都市部での交通渋滞の解消に努めます。
- ◎ 都市計画基礎調査を実施し、関係市町・地域住民との協働により、地域の実情に応じた安全で快適に暮らせる効率的な都市形成の推進が図られるよう、都市計画区域マスタープランを見直します。

I にぎわい・感動とくしま

1 にぎわい・交流とくしまづくり③

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ ICTの進展に伴い、誰もが、いつでも、どこでも必要な情報を発信・受信できるユビキタス社会が実現しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- ICT化の一層の推進による県民の利便性、安全・安心等の向上。
- 高齢者向けのパソコン講習を充実するなどし、インターネットの活用をさらに普及させ利便性の向上を図る。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

誰もが快適に暮らす情報化社会

- ◎ 全県CATV網構想により整備されたICT基盤が、人々の暮らしの中に溶け込み、テレビをはじめとする身の回りの様々な機器がネットワークに繋がり、誰もが、多様な情報やサービスを「いつでも、どこでも」必要なときに活用し、快適な生活を営んでいます。
- ◎ 少子高齢化や人口減少、厳しい経済情勢と産業構造の変化、地球規模での環境問題、風水害や地震災害など地域が直面する諸課題の解決にICTが積極的に利活用されており、安全・安心な社会や活力ある地域づくりが進んでいます。
- ◎ 行政サービスにおいても、様々なシステムの統合が進み、事務処理が迅速かつ効率的に実施され、県民に対する様々な情報提供が円滑に行われています。
- ◎ 人々の情報活用能力の向上と技術革新により、ICTは、社会経済活動の様々な場面で、特に意識することなく利活用されており、県民は、自らの能力をICTにより遺憾なく発揮し、地域社会の発展を支えています。
- ◎ 県民の多くが、徳島の持つ多様な資源・資産を最大限に活用し、郷土徳島の情報を発信することにより、国内外の人々との交流が盛んになり、徳島県全体が、コミュニケーションあふれる地域となっています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「e-とくしま推進プラン」の各施策の着実な推進を図るとともに、「全県CATV網構想」の成果をより多くの県民が享受できるよう、多様化・大容量化するコンテンツをスムーズに送受信できるFTTHサービスの利活用を促進します。
- ◎ 安心・安全な地域情報を、お年寄りから子どもまで、誰もが正しく受発信できるよう、情報活用能力の向上を図るとともに、最先端のICT技術の活用に向けた人材育成を図ります。
- ◎ 行政情報の集約を行い、行政サービスの効率化を図るため、クラウドコンピューティング技術を活用した自治体クラウドを推進します。
- ◎ ICTを活用した、様々な分野での行政情報の提供や、県・市町村の共同による行政手続のオンライン化等により、「いつでも、どこでも、誰でも」インターネット上でオンライン申請が行える「電子自治体」の構築を、情報セキュリティを確保しつつ推進します。

I にぎわい・感動とくしま
2 観光立県とくしまづくり①

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 地域の魅力の源泉である地域資源を大切にする活動や、心のこもった「おもてなし」により、徳島は魅力あふれる観光地として、競争力のある観光ブランドに成長しています。
- ◇ 映画、テレビ等の制作支援体制が整備され、映画関連企業も多数進出しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- お接待の心、おもてなしを活かした観光の開発。
- 治安の良さも観光面でもセールスポイントになるため、さらに磨きをかけ、安全・安心な街をアピールし、中国等からの誘客につなげる。
- 徳島を舞台とした映画を誘致し、誘客を図る

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

おもてなしの心豊かな観光立県

- ◎ 県民が、地域に対する誇りと愛着を持ち、「おもてなしの心」により、誰もが安心して快適に周遊できる観光地が各地に誕生しているとともに、県内外の人々に対して徳島の良さが広く認知され、徳島ならではの創意工夫を生かした個性豊かで魅力的な観光地に、多くの観光客が繰り返し訪れています。
- ◎ 海外と徳島阿波おどり空港を結ぶ定期便の就航や「関西広域連合」による広域観光ルートの設定により、成長著しい東アジアや欧米から、関西の一員である徳島への誘客が図られ、外国人観光客でにぎわっています。
- ◎ 徳島を舞台にした多くの映画やテレビドラマ等が数多く制作され、ロケ地を訪ねる大勢の観光客でにぎわっています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 徳島が誇る観光資源の磨き上げや、新たな観光資源の掘り起こしなどを通じて、観光地としての魅力を向上させるとともに、マスメディアやインターネット、口コミ等の活用により、広く国内外に向けて徳島の魅力を発信します。
また、海外からの定期便誘致に取り組むとともに、徳島の知名度を向上し、外国人誘客を推進するため、四国や近畿の各府県との連携による観光PR事業を積極的に展開します。
- ◎ 郷土の歴史や文化、自然などの観光資源に親しみ、ふれあうことを通じて、郷土に対する理解や関心を深めるとともに、「おもてなしの心」を持って観光客を受け入れることができるよう、学習機会の提供を図り、地域の観光リーダーをはじめ徳島の将来の観光を担う人材の育成を推進します。
- ◎ 「関西広域連合」の一員であり、「四国と近畿の結節点」に位置する本県のメリットを最大限に活用し、合同プロモーションの開催や広域観光ルートの設定等を通じて、国内外からの誘客促進を図ります。
- ◎ 徳島を舞台にした映画、テレビドラマ等のロケを誘致・支援し、映像を通じて、豊かな自然や魅力ある伝統文化などの徳島の魅力を広く発信します。

I にぎわい・感動とくしま

2 観光立県とくしまづくり②

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 県南部、西部へは、体験型滞在観光を求め、多くの観光客、修学旅行生が訪れています。
- ◇ 「四国八十八箇所霊場と遍路道」は、「お接待」や「健康」をキーワードとする観光資源として注目され、世代を問わず元気を取り戻すメディカルツーリズムが人気を集めています。
- ◇ 豊かな自然などの魅力に惹かれ、多くの人々が農山漁村を訪問しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 県南部や西部の自然を活かした観光資源を活用し、これまで以上に体験型観光の振興を図り、多くの県外客の受入を目指す。特に、修学旅行生などを受け入れる環境を整えることにより、修学旅行生に、もう一度徳島に行ってみたいと思っただけにするのではなく、将来の観光客増につなげる。
- 企業見学、農業体験と観光名所を組み合わせたコースを設定し、県外観光客を増やすとともに、県民にも改めて地元企業や農業を見直してもらおう機会とする。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

本物実感・感動満喫！体験型観光

- ◎ 徳島の豊かな自然や新鮮で安全・安心な食材、「阿波おどり」や「歩き遍路」といった伝統文化、農山漁村でのありのままの生活を活用した体験プログラムや地元の人々との交流を求めて、徳島を訪れる修学旅行生や家族客などでにぎわっています。
- ◎ 中国を中心とする東アジアからの「医療観光」、「教育旅行」ツアーを活用し、徳島を訪れる外国人でにぎわっています。
- ◎ 県南部圏域では、「四国の右下右上がり」をキャッチフレーズに、山から海へと連なる豊かな自然や伝統文化などの地域資源を活かした体験型観光や新たな観光資源の開発が推進され、国内外から多くの観光客が訪れるようになり、地域が活性化しています。
- ◎ 県西部圏域では、にし阿波観光圏の美しい自然や、日本の原風景、大切に受け継がれた伝統文化や伝説、歴史ある町並みが、おもてなしの心とともに魅力ある観光資源として国内外に発信され、外国人を含む多くの観光客でにぎわっています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 農林水産業体験や郷土料理など地域の日常生活と結びつく体験プログラムにより、地元の人々との交流が生まれる「体験型観光」をより一層推進するため、官民が連携した地域の主体的な取組を支援するとともに、国内外の教育関係者に対し、積極的なPR活動を行い、教育旅行の誘致拡大を図ります。
- ◎ 「医療観光」における検診メニューの拡大や「学校交流」におけるプログラムの充実など、受入体制の整備を推進します。
- ◎ 県南部圏域の団体や行政が一体となった地域主導型の連携体制を構築し、豊かな自然や伝統文化等の地域資源に磨きをかけ、国内外への情報発信により、「地域ブランド」の向上や交流人口の増大を図ります。
- ◎ 県西部圏域が一体となって、剣山、祖谷のかずら橋、うだつの町並みなどの観光地や神秘的雰囲気を持つ巨樹、伝統芸能、農村舞台など、地域資源に磨きをかけ、体験型観光や着地型観光の定着による「にし阿波」のブランド化を図り、国内外からの誘客を推進します。

I にぎわい・感動とくしま
3 国際交流立県とくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 外国人が身近にいることが当たり前の国際社会となり、文化や習慣の違いを認め合いながら暮らしています。
- ◇ 外国人が企業や大学においてその能力を十分に発揮するとともに、徳島は多くの留学生が集まる国際拠点となり、アジアをはじめ世界の発展に貢献しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 様々な国の外国人が多く住む、世界の国々と交流の深い県を目指す。
- 外国人と日本人が互いに理解を深めるための機会を増やすことにより、真の国際交流を推進し、外国人が安心して暮らせる徳島を実現する。
- 日本に来た外国人（中国人等）用のコールセンターを徳島に置くことにより、利便性の向上と雇用の確保につなげる。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

ひろがる国際交流 多文化共生

- ◎ 複数国の省や州と友好提携が実現し、行政のみならず民間においても、観光や経済、学術、文化・スポーツなど幅広い交流が行われ、世界中に「徳島」に親しみを持つ人々が増えています。
- ◎ おもてなしの心を大切にする「とくしま国際フレンドシップ憲章」の目指す、多文化共生のまちづくりが実現し、語学力をはじめ、言語の壁を意識しない外国人への暖かい「お接待の心」など、県民の外国人とのコミュニケーション能力が優れた県として、国内外から評価されています。
- ◎ 多くの言語による生活情報や通訳サービスが充実し、多くの外国人が仕事や留学で徳島に訪問・在住しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ ブラジル・サンパウロ州、ドイツ・ニーダーザクセン州に加え、アジア諸国を中心に、相互に利益を感じられる県レベルの友好提携省州を増やします。
- ◎ 経済や観光、医療といった観点から、特に中国をはじめとするアジア諸国との関係を重視し、さらなる交流拡大をすすめ、インバウンドの飛躍的増加や外資系企業の立地による雇用創出などを目指します。
- ◎ 「地域からの国際化」を実現するため、県民・行政の取組を結集し、外国人の方々と県民との幅広い交流を進めます。
- ◎ 在住外国人の生活支援や、観光のため来県された外国人の相談に対応するため、相談窓口の充実や、通訳ボランティア、日本語能力の向上に資する施策を進めます。
- ◎ 外国で生活経験のある方や、外国語に堪能な方の能力を積極的に活用し、また、公共施設に関する情報の多言語化などを進め、外国人が住みやすく、訪問しやすい徳島づくりを進めます。

I にぎわい・感動とくしま

4 文化立県とくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 阿波おどりや人形浄瑠璃などの伝統文化はもとより、地域の生活に根ざした行事、生活習慣などが次の世代へ継承されています。
- ◇ 文化資源を自由な発想で再構築し、新しい価値を生み出す取組も行われ、新しい「あわ文化」を創造しています。
- ◇ 「あわ文化」は、共通の精神的基盤として根づき、その創造と発信を通じ、心豊かに生きるための新たな価値観を提案し、国内外で徳島の存在感が高まっています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 地域の芸術や伝統文化に触れることで、その地域の特徴を活かした地域づくりができる。様々な取組の中で、文化や芸術に触れる機会をつくる必要がある。
- 文化財の有効活用を図り、地域の活性化につなげる。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

人と地域がともに輝く『あわ文化』

- ◎ 「あわ文化」創造の努力がたゆみなく続けられ、阿波人形浄瑠璃、阿波藍、阿波おどり等の伝統文化や音楽をはじめとする芸術文化が息づく魅力ある地域づくりが実現しているとともに、すべての県民が徳島ならではの文化資源の豊かさを再認識し、誇りを持って世界へ発信しています。
- ◎ 「あわ文化」の持つ文化力により、交流人口が増えるとともに、「あわ文化」をもとにした製品やビジネスモデルが数多く生まれるなど、地域経済の活性化が図られています。
- ◎ 本県の貴重な史跡・文化財が誇りある地域資源として活用され、県内各地で特色ある「文化資源を活かした地域づくり」が進んでいます。
- ◎ 文化の森総合公園各施設、あわぎんホール、文学書道館が、多様化・増加する県内外の生涯学習ニーズに応え、全国に誇れる生涯学習・文化・地域教育の拠点となっています。
- ◎ 四国遍路の文化財的価値が認知されるとともに、地域が様々な形でお接待を行う中、有形無形の文化が融合した、世界遺産に相応しい文化資産として、世界中から多くの人々が訪れています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 阿波人形浄瑠璃、阿波藍、阿波おどりを中心に、文化・芸術が息づくまちづくりを進め、伝統工芸に磨きをかけ、「あわ文化」を発信することにより、交流人口の増加を図ります。また、阿波藍製品のブランド化などビジネスモデルを構築し、地域経済を活性化させます。
- ◎ 徳島の文化に共感を持った音楽家による「とくしま国民文化祭記念管弦楽団（仮称）」の編成によるクラシック音楽の上演をはじめ、一流の舞台芸術の上演などにより、優れた芸術文化が息づくまちづくりを推進します。
- ◎ 本県の文化活動の拠点となるあわぎんホール、徳島県立文学書道館、徳島県立阿波十郎兵衛屋敷について、関係団体と連携し、官民協力して、魅力ある運営を行います。
- ◎ 「いにしえ夢街道」構想を全県展開し、史跡・文化財の活用による地域振興を図るとともに、文化に関する「人材バンク」の登録を推進するほか、県内各地の出土品などを閲覧できる文化財のバーチャル博物館の構築等により、OUR文化教育の創造に取り組みます。
- ◎ 文化の森総合公園各施設において、文化や芸術に直接触れ合う機会の充実を図ります。鳥居龍蔵記念博物館においては、関連する研究機関等と連携し、資料調査や共同研究を行うためのネットワークを形成し、「徳島発アジア学」の構築に取り組みます。
- ◎ 「四国八十八箇所霊場と遍路道」の構成資産の文化財的価値付けを行うとともに、産学民官が一体となって四国遍路文化の保存と継承を図ります。

I にぎわい・感動とくしま 5 スポーツ王国とくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 年代を問わず、それぞれの目的や好みに応じてスポーツを楽しんでいます。
- ◇ ヴォルティスとインディゴソックスは、徳島の誇り、シンボルとして戦い続けながら、多くの日本代表選手やプロ野球選手を輩出しています。
- ◇ 様々な競技で、国際大会などが開催され、次代を担う青少年に夢と活力を与え、世界のトップレベルを目指す選手が多く輩出されるなど、競技力は飛躍的に向上しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 県民スポーツデー（週1回）を設定し、小学校区単位で体育館・グラウンド等に集まり、運動することで、スポーツ振興につなげる。
- 県内には、メジャーなスポーツに限らず、様々なスポーツで活躍している選手がいる。こういった人材を積極的に活用し、一流選手が育つ環境整備を進めることが必要。
- スポーツ少年団の指導者に対する研修や指導、また、総合型地域スポーツクラブとの連携により、子ども達に多くのスポーツに触れさせ、能力に合った競技を選択できる環境づくりを行い、国際舞台で活躍できる選手を育成。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

みんなが誇れるスポーツ王国

- ◎ 日常生活の中で、「いつでも」「どこでも」「誰でも」が、それぞれの興味や関心、年齢、目的、体力に応じてスポーツに親しむことができる「生涯スポーツ社会」が実現しています。
- ◎ 学校施設や地域スポーツ施設が、多様なスポーツ環境を提供する場となり、すべての県民が日常的にスポーツに親しむ環境が整っています。
- ◎ 県民のプロスポーツに対する関心が高まり、スタジアム内外がにぎわいにあふれています。
- ◎ ジュニア層の育成・強化が、次世代へと引き継がれ競技スポーツの基盤となる高等学校の競技力が飛躍的に向上し、本県出身の選手が国際大会や全国大会で活躍しています。
- ◎ 総合型地域スポーツクラブが、競技力向上の活動拠点としての役割や子どもたちの健全育成の場を担うなど、より地域に根ざした充実したものになっています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 徳島県のスポーツ振興を総合的かつ計画的に推進し、県民の豊かなスポーツライフを築くため「徳島県スポーツ振興基本計画」を策定し、その着実な推進を図ります。
- ◎ プロスポーツの楽しさ・素晴らしさをより多くの県民に知ってもらい、プロスポーツを県民に身近な存在とすることにより、スポーツ文化の振興やにぎわいの創出を図ります。
- ◎ ジュニアからの一貫指導体制づくりを進め、関係機関との事業連携や指導者等の人材活用及び県内企業等との連携強化により競技力の向上を図ります。
- ◎ 本県初となる体育科を鳴門渦潮高校に設置し、充実したスポーツ・トレーニング環境を整えるとともに、スポーツ科学を研究している大学と連携し、科学的に分析する能力や知識の育成を図るなど、本県の競技力向上とスポーツ振興を図ります。
- ◎ 鳴門渦潮高校のスポーツ施設を広く地域に開放するとともに、周辺のスポーツ関連施設とも連携し、県民の生涯スポーツの振興を図ります。
- ◎ 総合型地域スポーツクラブの活用や官民協働によるスポーツ振興事業の推進により、誰もが楽しめる生涯スポーツの普及を図ります。

Ⅱ 経済新成長とくしま

1 経済新成長とくしまづくり①

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 貿易や国際事業提携、海外進出を行う企業が増加するなど、海外との経済交流が活発に行われ、産業国際化が進んでいます。
- ◇ 商店街は、住民参加により運営され、魅力的な店舗づくりが行われています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 徳島の企業は、視野が国内にとどまりがちと思われる。もっとグローバルな視野で商売ができるよう、サポートする仕組みが必要。
- 県都として徳島市の中心市街地の活性化、徳島からの文化発信が必要。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

活性化・グローバル化する地域経済

- ◎ 徳島ならではの地域資源を活用した研究開発、新製品開発や各種の最終製品づくりが促進され地域経済が活性化しています。
- ◎ 徳島小松島港では、韓国や中国との定期航路だけでなく、タイ・ベトナムへの直行便が開設されるなど、徳島とアジアを結ぶ「国際コンテナ貿易」の物流拠点となっています。
- ◎ 徳島阿波おどり空港の臨空用地では、「近畿と四国、陸と空の結節点」である立地条件を活かし、「徳島の玄関」にふさわしい、特色のある企業などが進出しています。
- ◎ 本県中小企業の経済活動が、中国からアジア圏へと進出範囲が拡大し、“徳島県”認知度の向上や製品ブランド力の定着が図られています。
- ◎ 本県の中心市街地において、地域住民の主体による協働のまちづくりが行われ、「まち」に、にぎわいや活力があふれています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「とくしま経済飛躍ファンド」を活用し、徳島ならではの地域資源を活用した研究開発、新製品開発、農商工連携など、中小企業の意欲的な取組を支援し、地域経済の活性化を促進します。
- ◎ 陸海空の交通基盤をはじめ、新成長戦略を支える社会資本整備を推進します。
- ◎ 「とくしま・中国グローバル戦略」に基づき、中国における本県企業の販路開拓及び本県への観光誘客を促進し、本県中小企業の海外展開の加速を図ります。
- ◎ 本県企業への海外展開に対する総合的な支援策を行います。
- ◎ 中心市街地の活性化に向け、地域住民などが主体的に進める協働のまちづくりを支援し、「人のにぎわい」や「魅力ある店舗」の創出を図ることで、「街の活力」を高めます。

Ⅱ 経済新成長とくしま

1 経済新成長とくしまづくり②

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 農業法人の規模拡大や企業の参入が進み、農業を目指す若者を安定的に雇用しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 農村地域では、農産物に付加価値をつけて販売するなど、女性が元気であるため、女性の経営や創業を支援する制度を構築。
- 新規就農を支援する仕組みづくりを行い、県内外から新規就農希望者を呼び込むことにより、新たな担い手を確保。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

もうかる農林水産業

- ◎ 農林水産業は、農商工連携や6次産業化が進み、関西圏域を含めた地産地消やブランド品目の輸出が促進され、地域環境を守る活力ある産業となっています。
- ◎ 農林水産業に携わる経営体の規模が拡大し、雇用労働力や機械化による作業の省力化、効率化、低コスト化が図られ、「もうかる農林水産業」が実現しています。
- ◎ 経営能力に優れた多様な担い手による、魅力ある農林水産業経営が行われ、農山漁村に活気があふれています。
- 農業が核となり、本県の豊富で良質な農林水産物と企業が有する高い技術やノウハウを融合し農商工連携による新商品が開発されています。また、県産農林水産物の販売ルート拡大と農林水産業の6次産業化により、生産者の所得が向上するとともに、地域に新たな雇用が創出されています。(再掲)

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 農業経営体あたりの売り上げ5割増を目標に「ひろがるとくしまブランド戦略」を推進します。
- ◎ 森林資源の生産・消費の倍増を目指した「次世代林業プロジェクト」を展開します。
- ◎ 地域を支える女性やこれからの本県農林水産業の担い手としての活躍が期待されている青年、新規就農者等への支援を充実させ、経営感覚に優れた担い手の育成に努めます。
- 農林水産業者と企業との連携による「農商工連携」や農業者自らが食品加工や販売まで展開する「6次産業化」に向け、情報・マッチング・モデル実証など「総合的にサポートする仕組み」を構築することにより、新たな農業ビジネスの創出を促進し「もうかる農業」の実現を目指します。(再掲)

Ⅱ 経済新成長とくしま

2 産業活性化とくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 木工業では、機能、デザインとも優れた商品を開発し、全国的にファンが拡大しています。家具のブランドとして「徳島」の名が国内外に浸透しています。
- ◇ 徳島は特徴ある機械加工技術を有する産地として、全国的にイメージが定着し、また、阿波正藍、しじら織りの衣類が、積極的な情報発信に伴い全国的に普及しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 国内外の見本市への出展を支援するなど、県産品の市場拡大を推進し、地域の活性化を図る。
- 徳島ならではの付加価値の高い地場産品の開発を支援する必要がある。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

浸透する徳島ならではの「地域ブランド」

- ◎ 徳島ならではの地域資源を活用した研究開発、新製品開発や各種の最終製品づくりが促進されるとともに、本県の代表的な地場産業である木工業、機械金属工業を中心に、生産性や付加価値が大きく向上し、「地域ブランド」が形成され、販路開拓が進み、県内の製造品出荷額が、大きく増加しています。
- ◎ ジャパン・ブルーの魅力が高まり、「阿波正藍（阿波藍染め）」の衣料が普及しています。また、夏物衣料として最適な「阿波しじら織り」を使用する人が増え、地域産業が活性化しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 県内企業への優先発注に努め、伝統的特産品、県産木材などの県産品の消費・利用を推進するなど、地域産業の発展・拡大を図ります。
- ◎ 県内中小企業の資金繰りの円滑化を推進することにより、経営の活性化を図り、県内はもとより県外・海外に向けた積極的な経営姿勢を引き出すよう支援します。
- ◎ 継続的な経営革新を促進するため、顧客本位に基づく「卓越した業績を生み出す経営の仕組み」を有する経営体制の構築を支援し、企業の競争力の強化を図ります。
- ◎ 「ものづくり企業」の販路開拓を図るため、ビジネスマッチングや新商品の情報発信などの施策を推進します。また、関西広域連合による展示商談会の開催や出展支援、情報発信にも取り組みます。
- ◎ 県内企業や創業を目指す県民などを広く対象として「強い組織」づくりのノウハウを総合的かつ身近に学べるプログラムを提供することにより、人材育成を支援します。
- ◎ クールビズとして、「阿波正藍」や「しじら織り」衣料を県内企業において、積極的に取り入れるよう働きかけるなど、県内愛用者を増やすとともに、インターネット等を利用した情報発信を積極的に行います。

Ⅱ 経済新成長とくしま

3 創業応援とくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 創業を目指す起業家が全国から集まり、開業率が日本有数の地域になっています。ベンチャー企業などの活躍により、徳島経済が持続的に発展しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 経済活力の源泉は中小企業であり、少数の大企業のみには依るのではなく、中小でも創業が活発で裾野が広いことが重要。経済規模は決して大きくなくても、創業が廃業を上回るような創業スピリットにあふれた地域を目指す。
- 徳島県民は起業意識が高いと思われるが、これをさらに発展させるような施策が必要である。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

高まる創業意欲と活躍するベンチャー企業

- ◎ 起業意識の喚起、創業に関する情報提供、起業家を支援するための施設の提供等により、独自の技術や経験等を活かして、県内で新たに創業する人が増えています。
- ◎ 県内市町村において、バイオマス活用推進計画（新バイオマスタウン構想）に基づき、各種バイオマス資源が有効に活用され、環境関連技術を活かした省エネ・低コストな農林水産業が地域の基幹産業として発展しています。
- ◎ 全国有数のブロードバンド環境や産学官が連携した人材育成などの優れた立地環境を活かし、デジタルコンテンツ（アニメ、映像、音楽、Web等）産業の先進地となっています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 活力があふれる徳島経済を実現するために、独自の技術や経験等を活かして、県内で新たに創業する者等を対象に、事業計画の認定、経営アドバイスを実施することで、創業を支援します。
- ◎ 創業しやすい環境をつくるため、起業家用の貸室を低廉に提供するとともに、事業者間のネットワークづくりを支援します。
- ◎ 創業を目指す者に対し、無担保・無保証で融資する制度を設け、資金調達の円滑化を図ります。
- ◎ 受注実績の少ないベンチャー企業等に対して、受注機会の拡大を図るための制度を設け、県が試験的に購入した製品の成果を実証することにより、販路開拓を支援します。
- ◎ 独創的な技術やサービスで新たな事業活動などの経営革新に取り組む企業を支援します。
- ◎ 本県の特性を活かし、未利用木質資源などバイオマスの生産・利用を推進し、環境関連技術を活かした地域づくりに取り組みます。
- ◎ 産学官が連携した人材育成や県内企業のコンテンツ利用の普及啓発事業等を積極的に推進することにより、デジタルコンテンツ産業の集積を図ります。

II 経済新成長とくしま

4 新産業創出とくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ LEDの世界的な研究開発地域として、関連企業が集積しています。
- ◇ バイオなどの新産業分野、農業と製造業の融合による新市場開拓、健康・医療クラスターの創成など、先端的産業の集積も進んでいます。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 産・学・官の連携により、本県に集積しているLED関連の研究を大学等で行うことにより、人材の育成を図るとともに技術のレベルアップを図る。
- 植物工場に加工施設・販売施設を併設し、農業の6次産業化（生産・加工・販売）を推進。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

さらに羽ばたく時代を先取る新たな産業

- ◎ 次世代照明として省エネ効果の高いLED照明の普及拡大、更なる用途の拡がり等、市場が拡大する中、LED関連産業の集積が進み、他産業や雇用に大きな波及効果をもたらすなど、本県の基幹産業として、地域経済を牽引しています。
- ◎ エネルギー密度が高く、長寿命などの特性をもつ「リチウムイオン電池」を使用し、産学官連携による各種の応用製品が開発され、県内企業によるリチウムイオン電池を活用した事業展開が推進されています。
- ◎ 本県のものづくり産業では、産学官連携での共同研究による製造品の高度な品質管理システム機器などが開発され、高品質でスピーディーな製造ラインを確立し、魅力的な商品を量産して世界に向け販売を行っています。
- ◎ 徳島が糖尿病研究開発臨床拠点として世界的に認知され、国内外から糖尿病の研究者が集積するとともに、世界に通用する製品が開発されています。
- ◎ 農業が核となり、本県の豊富で良質な農林水産物と企業が有する高い技術やノウハウを融合し農商工連携による新商品が開発されています。また、県産農林水産物の販売ルート拡大と農林水産業の6次産業化により、生産者の所得向上と地域の新たな雇用創出が図られています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 進化するLEDバレイ構想に基づき、企業、大学等の高等教育機関、関係団体、行政などが連携し、地域一体となり、「LED王国・徳島」を推進します。
- ◎ 「リチウムイオン電池」の世界最大級の生産工場が立地する本県の優位性を活かし、産学官連携によるリチウムイオン電池を活用した応用製品の開発を促進します。
- ◎ 高等教育機関や工業技術センター、(財)とくしま産業振興機構などの関係機関と連携した人材育成、技術力の向上、生産性向上に向けた総合的な支援をします。
- ◎ 低炭素社会の実現に向け、産学官が連携した省エネ技術等にかかる実証モデル事業を推進します。
- ◎ 徳島大学等県内の学術研究機関が有する技術シーズと企業ニーズのマッチングを促進し、新製品開発を支援します。
- ◎ 糖尿病の研究開発を加速化し、知的財産、人材育成及び事業化の各戦略を展開します。
- ◎ 農林水産業者と企業との連携による「農商工連携」や農業者自らが食品加工や販売まで展開する「6次産業化」に向け、情報・マッチング・モデル実証など「総合的にサポートする仕組み」を構築することにより、新たな農業ビジネスの創出を促進し「もうかる農業」の実現を目指します。

Ⅱ 経済新成長とくしま

5 しごとイキイキとくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 個人の職業訓練のための自助努力を支援する制度が充実し、学びたい人は誰でも学ぶことができます。
- ◇ 多様な雇用形態の中から、価値観やニーズに応じて働き方を選択でき、非正社員を選択しても、能力・勤続年数等に応じて正社員並みの待遇となることが可能です。
- ◇ SOHOやテレワークなど、時間や場所にとらわれない働き方も普及し、また、障害者も福祉機器の高度化などでいきいきと働き、社会の重要な担い手となっています。
- ◇ 高齢者の生活や仕事と育児の両立を支援するサービスが生まれ、暮らしにゆとりと快適さを提供しています
- ◇ 徳島経済は成長し、多様な働く場を創り出すことで、他の地域への人口流出もなくなっています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 強みのある成長産業の拡大を図り、若者が働く場所を創出。
- 徳島県のLEDやバイオマスなど環境分野の素地を活かし、環境関連産業特区として企業誘致を図る。
- ダブルワークの推奨やワークシェアリングを取り入れることにより、雇用を増やすとともに、所得を倍増させる。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

雇用の安定と働きやすい職場環境

- ◎ 本県の強みを活かした競争力のある産業（「環境・エネルギー」、「医療・介護・健康」分野）において企業誘致が進み、新たな投資や雇用が持続的に行われています。
- ◎ 就労や技能習得の機会が確保され、すべての労働者が自分に合った多様な働き方ができる社会が実現しています。
- ◎ 仕事と生活の調和が図られ、労働者が安心して働ける環境が整っています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 製造業における投資や雇用に対する支援を行うことで、「将来成長が見込まれる分野（「環境・エネルギー」、「医療・介護・健康」分野）」における企業誘致を重点的に推進します。
- ◎ 今後も要介護高齢者等の増加が見込まれることから、高齢者のニーズに的確に対応し、質の高い介護サービス等を提供するため介護職員等の雇用の促進を図ります。
- ◎ 若年者やUターン等希望者などに対する相談体制の充実など、県内で就職しやすい環境を整備します。
- ◎ 職業訓練施設などにおいて、訓練内容の充実を行い、人材育成機能を高めます。
- ◎ 障害者の職業的自立を支援するため、事業主をはじめ県民への意識啓発や職業能力開発の場を確保します。
- ◎ 労働雇用に関する情報提供や啓発活動を充実させ、働きやすい職場環境の整備を推進します。

Ⅱ 経済新成長とくしま

6 ひろがるブランドとくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 新ブランドの開発が進み、徳島の食材は味と栄養価の面で高い評価を受けています。
- ◇ 「とくしまブランド」をとり入れた食文化が、アジアなど広く海外でも定着しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 農畜産物の付加価値やブランド力を高め、中国、韓国等、東南アジアへの輸出を促進。
- 徳島県は農水産業の強みを活かし、関西圏の食料供給地として生きていくべき。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

世界にひろがる「とくしまブランド」

- ◎ 「とくしまブランド」が「食品分野」全体へと拡大し、市場特性に応じた販路の拡大や消費感度の高い産地の育成が進んでいます。また、本県が関西広域連合内の「地産地消の産地」として定着するとともに、中京、京浜、さらに海外へ「とくしまブランド」の販売が拡大されています。
- ◎ 農業者はGAP（生産工程管理）の導入・実践により、安全な農産物を生産するとともに、生産情報が開示され、安全・安心な農産物を購入できるようになっています。また、カーボンオフセット型の商品等が拡充され、環境に優しい農業の取組が普及しています。
- ◎ 新技術の開発・普及や生産基盤の整備により、県内各地で「ブランド産地化」が進んでいます。
- ◎ 県内各地の地域特性、地域資源を活用した特産品の開発が進むとともに、新規事業者の参入やファームサービス事業体など多様な担い手により耕作放棄地が解消され、農地の有効活用が図られています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「とくしまブランド」を「食品分野」へ販路拡大するため、「農商工連携」や「6次産業化」の積極的な推進など、消費者ニーズに応える「消費感度の高い産地づくり」を図ります。
- ◎ 新たな「攻めのPR」によるブランド力の加速的向上を図り、国内はもとより、海外市場の開拓や国際競争力の強化等により、農林水産ビジネスの発展を図ります。
- ◎ エコファーマーや有機農業を育成・支援するとともに、GAPを導入した「とくしま安心農産物」認証制度を推進し、とくしまブランドの認知度向上と販路開拓・拡大を図ります。
- ◎ 「知の拠点」である農林水産総合技術支援センターが核となり、新品目や新品種の開発を行うとともに、ブランド品目の品質や生産性の向上を図る技術開発及び実用化を推進します。
- ◎ 県内各地で「ブランド産地化」を促進するため、農地の有効利用を図り、農業基盤や生産施設の整備・長寿命化を進めます。また、水産資源の増殖等の取組を促進します。
- ◎ 本県各地の地域特性や豊かな地域資源を活用し、県東部における「露地野菜や施設園芸等」の大規模経営体の育成、山菜・みつまた等による「にし阿波ならではの」農産物の振興、資源循環型農業を導入した「かいふエコブランド農産物」のブランド化等を推進します。

Ⅱ 経済新成長とくしま

7 次世代を支える林業とくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 間伐などの手入れが進み、森林資源が充実し、機械の高性能化で生産性が飛躍的に向上しています。
- ◇ 大自然の中で自分の力を試したい若者にとっても、林業は魅力のある職場となり、森林組合を中心にUJ1ターン者などの担い手が活躍しています。
- ◇ 県産木材の供給量が伸び、木造住宅以外でも幅広い分野に利用が拡大しています。
- ◇ 豊かな森の恵みを活用した林業関連産業が発達しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 中国市場を視野に入れ、木材を輸出商品として、開発していくべき。内装材や銘木、家具、建具といった二次製品（付加価値商品）を官民協力のもと輸出商品として、研究開発していくべき
- 作業道などの基盤整備や高性能林業機械の導入が進むとともに、年配者の林業に関する知識・技術が若者に受け継がれた生き生きとした山村社会を実現。
- 木材自給率100%を掲げ県産木材の利用促進を図る。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

生産倍増・消費拡大「次世代林業」

- ◎ 先進的な林業機械の導入や、森林の奥深くまでの路網の整備、高い技術力を有する担い手の育成が進んだことで、林業の生産性が飛躍的に向上し、木材の生産量が倍増しています。
- ◎ 徳島すぎをはじめとする豊富な県産木材を活用し、多チャンネルな商品開発が進み、地場産業である木材産業や家具製造業が大きく発展しています。
- ◎ 木造建築物をはじめ、内装材や家具など、身のまわりのあらゆるところで県産材製品の利用が進み、木材自給率が大きく向上しています。
- ◎ 「徳島すぎ」は、関西広域連合内で「地元の木」として愛着をもって利用が進むとともに、高品質で多彩な製品に評価が高まり、首都圏や海外へも販路が拡大しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 県産材の生産と消費をともに拡大させるため、林業者や木材産業者、設計・建築関係者、消費者が一体となった取組を推進します。
- ◎ 木材生産量の倍増に向け、規模の大きい「高能率団地」の設定や、先進的な林業機械による「新林業生産システム」の導入、効率的な路網の配置を進めます。
- ◎ 新規就業者や建設業など他産業からの参入など新たな担い手の確保を図るとともに、初級から上級者へとステップアップできるような体系的に育成し、技術力の向上を図ります。
- ◎ 高品質かつ安定供給可能な木材産業の育成と、産学官の連携による、多様な消費者ニーズにも応える商品開発を進めます。
- ◎ 県内消費の倍増に向け、公共部門のみならず民間分野も含めた「県民総ぐるみ」で、毎年1割ずつ県産材の利用量の上積みを目指す「県産材10UP運動」を展開します。
- ◎ 県外消費の倍増に向け、関西広域連合を契機とした域内での地産地消の推進、首都圏などの大消費地や海外への積極的な展開を図ります。

Ⅲ 安全・安心とくしま

1 安全・安心とくしまづくり①

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 住民一人ひとりが自らの命は自ら守るという「自助」、地域は地域で守るという「共助」、そして行政の役割としての「公助」による取組が進んでいます。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 大規模な災害など、いざという時のために、平時からしっかりとした体制を構築しておく必要がある。
- 将来を見据え、小さな頃からしっかりと防災に関する教育を行い、人材を育てるべきである。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

充実・強化する危機管理体制と防災教育

- ◎ 県、市町村をはじめ、消防・警察・自衛隊等の関係機関、事業者などの連携により、災害や危機事象に的確に対応できる危機管理体制が整っています。
- ◎ 被災地情報などの災害情報が、県民や事業者に円滑に提供されるなど、情報化の進展に応じた防災情報の提供体制の整備が進んでいます。
- ◎ 消防の広域化及び消防団員の確保により、県民が安心して暮らせる消防力が整備されています。
- ◎ 学校や地域において、児童・生徒の発達段階に応じた防災教育が行われ、将来、地域や事業所における防災活動の核となる人材が養成されています。
- ◎ 公共施設の適切な維持管理のもと、必要な機能が維持され、県民の安全・安心が確保されています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 国民保護共同訓練等を実施し、県、市町村をはじめ、消防・警察・自衛隊等の関係機関、ライフライン事業者との連携強化を図るなど、危機事象への対応能力の向上を図ります。
- ◎ 消防組織の統合や消防指令センターの共同化を促進し、市町村の消防体制の充実強化を図ります。
- ◎ 女性や若者、少年少女も参加して、消防団活動を地域ぐるみで支える「未来の消防団」づくりを支援し、団員の確保を図ります。
- ◎ 県、市町村をはじめ、ライフライン事業者やマスコミ等の関係機関で情報共有し、県民や事業者に防災情報等を提供するシステムの整備・運用を図ります。
- ◎ 情報通信ネットワークの整備のあり方を検討し、災害時における県と市町村、防災関係機関等の通信手段の確保・充実を図ります。
- ◎ 学校や地域における児童・生徒への防災教育を進める体制づくりを行い、防災を担う人材育成を推進します。
- ◎ 公共施設の老朽化に備え、必要な機能を維持しつつ、将来の改良・更新コストを抑制するため、橋梁や排水機場などの既存施設の長寿命化を推進します。

Ⅲ 安全・安心とくしま

1 安全・安心とくしまづくり②

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 地域住民と警察・行政等が一体となった安全・安心なまちづくりの活動が定着しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 犯罪等が減少し、誰もが安心して暮らせる社会の実現。
- 子どもや高齢者にやさしい歩道の整備。
- 早めの方向指示など交通ルールを徹底し、他県からの旅行者、移住者が安心して車の運転ができる街にする。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

体感治安向上と交通マナー先進県

- ◎ 街頭や地域における警察官やパトカーのパトロールの頻度が高くなるとともに、利便性や災害時の安全確保にも配慮した地域の治安確保の拠点である警察施設（警察署、交番及び駐在所等）が、警察機能が十分に発揮できるような形で整備され、県民の体感治安が向上しています。
- ◎ 県民一人ひとりの防犯意識が向上し、幼児から高齢者まで安心して暮らせる地域社会が実現しています。
- ◎ 県民一人ひとりの交通安全意識や交通マナーが向上し、交通事故が少ない安全・安心な社会が実現しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「安全・安心とくしま」実現のため、「県民から見える警察活動」に取り組むとともに、県民の利便性の向上を図るための運転免許センターの移転整備をはじめ、治安情勢、社会環境の変化や災害発生に対応した警察署等の施設整備を進めます。
- ◎ 街頭犯罪等の発生状況の分析に基づき、予防と早期検挙に向けた効果的、集中的な対策を実施します。
- ◎ 防犯パトロールを含む犯罪の予防のための活動である地域自主防犯活動を促進し、犯罪の防止に配慮したまちづくりを推進します。
- ◎ 県民一体となった交通マナーの向上と交通ルール遵守に向けた運動を展開し、交通マナー先進県の実現を図ります。
- ◎ 身近な生活道路等において、歩行者や自転車利用者の視点に立った交通安全施設の整備を推進します。

Ⅲ 安全・安心とくしま

2 いのちを守るとくしまづくり①

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 全地域で自主防災組織が組織され、地域の防災リーダー等も着実に育ち、防災訓練が地域で自主的に行われています。
- ◇ 病院、学校等の公共施設や民間建築物の耐震改修が進展し、揺れによって人命が失われる心配が無くなるとともに、緊急輸送路の整備が進んでいます。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 地域の子ども会などを通じ、親子で避難訓練や防災訓練を行うことにより、防災力を高め、地域防災組織の増強につなげる。
- 一般の住宅の耐震化工事が進んでいない。短期的に劇的に耐震化を図ることができる工法や制度をもう一度検討すべき。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

向上する地域防災力

- ◎ 県域を越えた災害応援などの取組により、東南海、南海地震や3連動地震など、広域的な災害に対応する体制が整備されています。
- ◎ 防災リーダーや災害ボランティア等の主体的な防災活動への取組により、県全体の地域防災力が大きく向上しています。
- ◎ 公共施設の耐震化が進み、災害時の防災拠点として整備され、地震に強いとくしまが実現しています。
- ◎ 県内のほとんどの病院が耐震化されるとともに、災害拠点病院においては、災害時の医療救護活動を専門的に行う「災害派遣医療チーム（DMAT）」の養成が行われるなど、災害時における医療提供体制の確保が図られています。
- ◎ 木造住宅や大規模な民間建築物などの耐震化が進み、安全・安心な住生活環境が確保されています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 国の3連動地震「対策大綱」を踏まえ、県民総ぐるみで地震への意識を高める取組とともに、県民と一体となった地震防災対策を推進します。
- ◎ 自主防災組織による組織的な活動促進と企業や地域における防災リーダーの養成、災害ボランティアの円滑な受け入れや活動環境の整備促進を行います。
- ◎ 関西広域連合の一員として広域的な大規模災害に備えて、県域を越えた訓練実施・参加などにより、対応能力の向上を図ります。
- ◎ 防災拠点となる県の施設等の耐震化を計画的に進め、安全で安心なまちづくりを推進します。
- ◎ 災害拠点病院をはじめ、病院の耐震整備を促進するとともに、「DMAT」の養成に積極的に取り組むことにより、災害時における医療提供体制の整備・充実を図ります。
- ◎ 救命救急や防災活動等を支援するインフラ整備を推進します。
- ◎ 木造住宅の耐震化を促進させるため、直接県民に呼びかける「戸別訪問」等を実施し、「耐震診断」や耐震性の向上につながる「耐震改修」等の住宅リフォームへの支援に取り組みます。

Ⅲ 安全・安心とくしま

2 いのちを守るとくしまづくり②

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 災害予防事業も進み、洪水や土砂災害による人命被害が激減しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 世界的な異常気象の多発に伴い、徳島県においても、これまでにない豪雨などに襲われる可能性があるため、今後、自然災害に強いまちづくりが、ますます重要である。
- 人命尊重最優先の考え方に基じた災害に強い道路整備をはじめとした各種施設整備が必要。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

災害予防と被害の軽減

- ◎ 洪水や高潮、土砂災害などによる被害を未然に防ぐための道路・河川・海岸・砂防・治山など整備が着実に推進されるとともに、県民の防災意識が高揚し、県民の安全・安心が図られています。
- ◎ 災害時における危険箇所の周知とともに、雨量や河川水位などの防災情報がリアルタイムに県民に届くことで、迅速な初動対応が可能となり、人命に関わる被害の軽減が図られています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 過去に大きな浸水被害が発生した河川において、再び浸水被害が発生しないよう、河川改修などを重点的に実施します。
- ◎ 海岸保全施設について、必要な嵩上げ、陸閘の改修等の整備を進めます。
- ◎ 土石流、地すべりなどの土砂災害が発生した箇所など危険性の高い箇所において、砂防、治山施設等を重点的に整備します。
- ◎ 主要幹線道路の異常気象時における事前通行規制区間の解消に向けた道路整備や、中山間地における集落の孤立防止のための生命線道路の整備を促進します。
- ◎ 土地の境界を明確化することにより、災害復旧・復興の迅速化を図るとともに、適切な森林管理・保全を推進するため地籍調査を推進します。
- ◎ インターネットや携帯メール、地上デジタル放送などの多様なツールを活用した県民への情報発信機能の充実を図ります。
- ◎ 土砂災害警戒区域の指定を促進し、防災意識の啓発、警戒避難体制の構築を図ります。

Ⅲ 安全・安心とくしま

3 くらしを守るとくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 食の安全を確保する仕組みが定着し、安心の食生活が実現しています。
- ◇ 高齢者等を消費者被害から守る地域のネットワークもよく機能し、誰にとっても安全・安心で充実した消費生活が実現しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 食の安全を確保するため、食品加工業者における輸入や加工の過程を、さらに透明化させる取組が必要。
- 消費者トラブルを防止するため、広報啓発をさらに進め、高齢者をはじめ誰もが安心して暮らせる社会を実現。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

食の安全確保と消費者被害の防止

- ◎ 食品の「安全」が確保され、正しい情報の共有や相互理解により、「安心」して食生活を送ることができる社会が実現しています。
- ◎ 食品の製造から販売までの各段階における監視指導等により、食品の安全性が確保されています。
- 農業者は、GAP（生産工程管理）の導入・実践によって安全な農産物を生産するとともに、生産に係る情報が、流通・販売業者によるトレーサビリティの情報と併せて開示されることで、消費者は安全な農産物を安心して購入できるようになっています。（再掲）
- ◎ 消費者が、自ら必要な知識を習得したり、その知識を活用して他の人の自立を助けるなど、主体的・積極的に取り組み、悪質商法等による消費者被害のない社会が実現しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 食品表示の監視指導の強化やリスクコミュニケーションの推進により、県民の食に対する信頼回復を図る取組を一層進めます。
- ◎ 徳島県食品衛生監視指導計画に基づき、食品に係る関係部局が連携した監視指導等により、県民の健康保護と食の安全・安心の推進を図ります。
- ◎ 日本農林規格（JAS）取得の推進や獣医療の体制を整備することで、安全・安心な畜産物の生産拡大を図ります。
- ◎ LEDの活用、DNAの解析、天敵の利用などで安全・安心な農林水産物を提供する新技術を開発します。
- GAPを導入した「とくしま安²農産物」認証制度を推進し、安全安心なとくしまブランドの認知度向上と販路開拓・拡大を図ります。（再掲）
- ◎ 消費生活に関する諸問題の解決を図り、消費者トラブルに迅速に対応するため、国・市町村と連携し、消費者の安全・安心の確保に向けた、自立した消費者育成の強化のための情報提供や啓発活動を充実します。

Ⅲ 安全・安心とくしま

4 しっかり医療とくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 地域ごとの医師偏在は解消され、地域の基幹病院には必要に応じて診療科が適正に配置されています。
- ◇ 「遠隔医療システム」や「ドクターヘリ」などにより、広域救急医療体制の整備が進んでいます。
- ◇ 遺伝子診断や電子カルテなどの普及で、個人にあわせた、いつでも、どこでも等しく高度な医療サービスが受けられる安心の医療体制が実現しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 本県出身の医師が、本県へ戻ってくるシステムの構築を行い、医師不足の解消を図る。
- 医師、看護師、薬剤師の在宅医療連携の推進により、山間地の医療環境の充実を図る。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

いつでもどこでも安心医療

- ◎ 徳島大学医学部の「地域枠」で養成された医師が第一線に続々と輩出され、医師の地域偏在や診療科偏在といった課題も次第に解消されつつあります。
- ◎ 24時間365日、救急患者を受入れできる救急医療体制が構築され、夜間における子どもの急病などにも迅速に対応できる環境が整備されています。
- ◎ 本格的なドクターヘリの運航により、県下全域をカバーする搬送体制が整備され、救命救急センター等で高度な医療を受けることができるようになっていきます。
- ◎ より高度ながん医療が提供されるとともに、がん患者の在宅における療養体制整備が進み、生活の質の向上が図られています。
- ◎ 母と子どもの命を支える産科や小児科の医療体制が充実し、安心して出産や育児を行う人が増えています。
- ◎ 遠隔画像診断システム等の普及により、高齢者や障害者など外出が困難な人も、かかりつけ医等から都市部にある中核病院の専門医による診断を容易に受けることができるようになっていきます。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 医師の地域偏在や診療科偏在を解消するため、地域医療に貢献する医師の養成に取り組みます。
- ◎ 安心して子どもを産み育てることができる環境整備を行うため、「総合メディカルゾーン」に24時間365日対応可能な小児救急医療などの体制の整備を行います。
- ◎ 「総合メディカルゾーン」を拠点にドクターヘリを導入し、救急医療体制の充実を図ります。
- ◎ 関西広域連合による広域的なドクターヘリの配置・運航など、関西の府県域を越えた広域救急医療連携のさらなる充実に取り組み、本県をはじめ関西全体に「安全・安心の輪」を広げていきます。
- ◎ がん診療連携拠点病院等の機能強化を図り、より高度で専門的ながん医療を提供するとともに徳島がん対策センターが中心となり、がん患者やその家族の支援を図ります。
- ◎ 「総合周産期母子医療センター」において、妊産婦及び新生児等に対し、高度で専門的な医療を提供するとともに各医療圏域における周産期医療の充実を図るため、新たに「地域周産期母子医療センター」の整備を行います。
- ◎ 山間部等の県民の医療に対する不安や医師等への負担軽減を図るため、「遠隔画像診断システム」など、ICTを活用した情報ネットワーク体制の整備を行います。

Ⅲ 安全・安心とくしま

5 生涯健康とくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 心身ともに元気で活動的に暮らせる「健康寿命」が伸び、健康で教養豊かな長寿を楽しむ社会が実現しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 高齢者の医療費の抑制や糖尿病死亡率の改善には、10年スパンでの取組が必要であり、現在40～50代の県民が公共交通機関利用促進により、歩く時間を増やすなど、より積極的に運動を行う「県民運動」のような機運の醸成が重要
- ヘルシー食の推進により、肥満や生活習慣病を解消する取組を促進する。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

生涯現役し伸びゆく健康寿命

- ◎ 自らの健康づくりに積極的に関心を持ち、生活習慣の改善と検診の受診を率先して行う県民が増え、糖尿病をはじめとする生活習慣病やがんによる死亡率が改善しています。
- ◎ 歯・口腔の健康づくりに関する理解が進み、自らが日常生活において、歯・口腔の健康づくりに取り組む県民が増加しています。
- ◎ 新たな感染症の流行に備えた、情報収集と提供及び検査体制の確立などが図られ、感染症危機管理体制が整備されています。
- ◎ 身の回りに気軽に相談でき、話を聞いてもらえる人が増えることで「地域における絆」が強化され、孤立化を防ぎ、自殺者数が減少しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 自らの健康に積極的に関心を持ち生活習慣を変えようとする機運を醸成し、県民総ぐるみの健康づくりを推進します。
- ◎ 効果的で質の高いがん検診の普及を推進します。
- ◎ バランスの取れた食生活の実現や運動習慣の定着化など、「食生活」、「運動」の両面から健康づくりを推進し、糖尿病をはじめとした生活習慣病の改善を図ります。
- ◎ 乳幼児期から高齢期に至るまで、各ライフステージにおける一貫した歯科保健対策を推進します。
- ◎ 感染症の発生に備え、保健所や保健製薬環境センター、医療機関などの関係機関が連携し、情報提供体制や医療提供体制を構築するとともに、県域を越えた広域的な連携体制を整備します。
- ◎ 自殺予防・傾聴の研修を受けた多くの「自殺予防サポーター」を各地域で養成することにより、地域で気軽に相談できる人材の増加を図り、自殺者ゼロの県づくりを目指します。
- ◎ 吉野川沿いと海岸線を結ぶコースや道の駅を起点としたサイクリングコースの設定、魅力的な景観に恵まれた場所におけるウォーキングコースの整備など、健康増進のための基盤整備を進めます。

IV 環境首都とくしま

1 環境首都とくしまづくり①

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 快適さと環境が両立したライフスタイルが広まり、高品質・長寿命の製品を利用し、また、太陽電池など自然エネルギーを最大限に利用することで、家庭から排出されるCO₂は半減されています。このような「環境首都とくしま」のライフスタイルは、途上国のモデルともなっています。
- ◇ 木材から低コストでエタノールを製造する技術が確立し、徳島はバイオマスの最先端地域になり、アジア地域の環境問題解決にも貢献しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- あらゆる面で環境負荷が低減されている社会を目指すべき。
- JR増便や新システム導入等により、公共交通の利便性を向上し、マイカーからの転換を促す。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

持続可能な未来に向かう社会

- ◎ 環境に配慮した生活をするライフスタイルや社会経済システムに転換され、環境への負荷が最小限に抑えられています。
- ◎ 新たに自動車を購入する際は、誰もが電気自動車やプラグイン・ハイブリッド自動車などの「地球にやさしい自動車」を購入し、その使用目的に応じて使い分けをしています。
- ◎ 企業等においては、公共交通機関や自転車を利用した通勤が多くなるとともに、近距離の出張については電動アシスト自転車が大いに利用されています。
- ◎ 本県に豊富に存在する森林資源をはじめとしたバイオマスや太陽光、水力などの再生可能エネルギーを活用し、「エネルギーの地産地消」が進むとともに、売電等による新産業も創出され、地域が活性化しています。
- ◎ 新築住宅や事業所には太陽光パネルが設置され、自分で使う電力は自らが創り出すとともに、照明にはLEDが使われるのが当たり前になっています。
- ◎ 県内に大・中規模の太陽光発電や風力発電が設置され、再生可能エネルギーの大量導入が可能となっています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「徳島県地球温暖化対策推進計画」に基づき、県民、事業者、行政が、互いに連携、協働し、主体的に各種施策に取り組むことにより、各分野において温室効果ガス排出量を削減します。
- ◎ 「とくしま環境県民会議」において、地球にやさしい自動車について、地域特性を踏まえた普及方策を策定するとともに、産学民官が連携・協働して、急速充電等設備の整備やレンタル・カーシェアリングを通じて、普及を促進します。また、関西広域連合による広域的な電気自動車の普及や温室効果ガスの削減の普及啓発事業などを実施します。
- ◎ パークアンドライドやサイクルアンドバスライド等により、自動車からバスや鉄道などの公共交通機関への利用の転換を図ります。
- ◎ 太陽光や小水力などの再生可能エネルギーの「地産地消」を産学民官協働で支援することにより、地域経済及び地域社会の活性化や雇用の創出を促進します。
- ◎ 県有施設から率先して、太陽光発電設備やLED照明を設置し、エネルギーの自給自足を図るとともに、各種情報の提供や専門家によるアドバイスなどにより、民間企業や個人住宅における取組を支援します。
- ◎ 産学民官が連携・協働して取り組むことにより、遊休公用地等を活用しての大・中規模の太陽光発電や風力発電の設置を促進します。

IV 環境首都とくしま

1 環境首都とくしまづくり②

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ すべての学校が「学校版環境ISO」に取り組み、小さな頃から環境問題への理解力と実践力をしっかりと養成しています。地球環境や資源の有限性が認識され、人々が豊かさを実感しつつ、環境に配慮した生活をするライフスタイルや社会経済システムに転換され、環境への負荷が最小限に抑えられています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 将来を担う子供達が、環境負荷の少ない生活様式を身につけ、家族とともに継続していくことが大事。
- 地域住民が主体となって環境活動に取り組めるようにするため、NPOと町内会・自治会等と一緒に、地域を引っ張る「ご近所パワーの養成」や地域プロデュース、事業コーディネートができる人材づくりが必要。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

広がる環境活動の「わ」

- ◎ 誰もが高い環境意識を持ち、それぞれの役割・責任に応じ、主体的に環境活動に取り組んでいます。また、環境活動に取り組むことにより、幸福感、充実感を味わっています。
- ◎ 子どもからお年寄りまで楽しみながら環境に関する知識を吸収できる講座やイベントが数多く用意されているとともに、情報収集しやすいように、ジャンル別や時期別に適切に分類されており、誰でも気軽に参加できるようになっています。
- ◎ 学校を拠点に、環境活動が地域ぐるみで積極的に行われることにより、環境問題について関心を持ち、様々な課題解決に向け実践力を身につけた子どもたちが育つとともに、家庭や地域にも環境意識が浸透しています。
- ◎ 地域社会・企業等との連携型環境学習の推進により、児童・生徒が、家庭・地域・学校が一体となった環境活動に積極的に参加しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ エコみらいとくしま（環境首都とくしま創造センター）を拠点として、環境活動の「わ」が広がる人づくり、地域づくりを進めていきます。
- ◎ 子どもの頃から環境に親しみを育てるよう、環境アドバイザー（学識経験者、環境活動家、県職員）が、小・中学校や地域の自治会などに出向き、出前講座を実施します。
- ◎ 指導者養成講座を受講した者が、受講後は地域に入って町内会や自治会の環境活動のプロデュースやコーディネートをするとともに、各種講座の講師になるなど、環境意識の高い人材の育成を進めます。
- ◎ 県内各地域における環境活動・環境学習の指導者や環境団体のリーダーなどのネットワーク化を図ります。
- ◎ 誰もが、自主的、主体的に環境活動に取り組むことができるよう、顕著な活動に対する表彰制度や活動方法の支援を工夫します。
- ◎ 学校施設の屋上緑化、内装材の木質化、太陽光発電設備の導入などを進め、すべての学校を地域の環境教育の拠点とすることにより、地域全体で取り組む環境保全活動の充実を図ります。
- ◎ 体験的・実践的環境学習である「学校版環境ISO」の取組を充実・発展させ、学校と地域社会がより一層連携し環境保全活動を推進する連携型環境学習の取組を進めます。

IV 環境首都とくしま

2 循環型社会とくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 家庭生活では、快適さと環境が両立したライフスタイルが広まり、高品質・長寿命の製品を利用するとともに、人々の意識がモノを買うという感覚から機能を買うというものに変化しているため、レンタル、リース、リユース市場が成り立っています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- レジ袋有料化の取組を県下一円に広げることで、環境首都とくしまを全国にPRするとともに、家庭からのエコ活動を考えるきっかけとしてもらうことにより、より一層の循環型社会推進を図る。
- 家電製品やパソコンだけではなく、ペットボトルをはじめ幅広い製品でデポジット制度が導入され、リサイクルの仕組みがしっかりと確立された社会の実現。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

進む循環型社会への転換

- ◎ 県民誰もが「環境にやさしい生活」を心がけ、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会から、環境負荷が低減された循環型社会へと転換しています。
- ◎ 県民や事業者に3R意識が浸透したことにより、さまざまなリサイクルシステムの導入がなされ、廃棄物ゼロ社会が推進されています。
- ◎ 循環型社会に対応した廃棄物処理・リサイクル施設の整備が進むとともに、廃棄物等を新たな資源として捉える「環境関連産業」が集積されています。
- ◎ 畜産農家と耕種農家の連携が促進され、家畜排泄物が肥料として有効利用されるとともに、エネルギー資源として鶏糞の熱利用が進められています。
- ◎ 環境への負荷を軽減した持続的な農業や畜産業が営まれているとともに、新たに付加価値のある「安全・安心な農畜産物」が県内外の消費者などに提供されています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 県民や事業者に3R意識の浸透を図り、廃棄物のリサイクルを進めます。
- ◎ 「ゴミゼロの日」キャンペーンをはじめとした環境美化の取組を産学民官と連携、協働により推進し、すべての県民に対し「ゴミを出さない、捨てない」という意識の定着を図ります。
- ◎ スーパーなど事業者、消費者、行政の3者が連携、協働し、マイバッグ持参に対する優遇制度を導入すること等により、マイバッグ持参を促進します。
- ◎ 優良な産業廃棄物処理業者の育成や環境関連産業の振興を図るための支援を行います。
- ◎ 一般廃棄物処理施設（焼却炉・熔融炉）を建設する市町村等に対し、熱利用や残さの資源化機能を有するリサイクル性の高い施設整備を行うよう助言や技術的支援を行います。
- ◎ 農村地域から出る使用済み農業生産資材や家畜排せつ物などについて、適正な管理と処理及びバイオマス資源としての利活用を推進し、農村地域の環境保全や資源の有効利用を図ります。
- ◎ 畜産業の副産物である鶏糞などを、地域の農産物や飼料用米への有機質肥料として有効利用する「南部圏域ならではの循環システム」を推進します。

IV 環境首都とくしま

3 安全で快適なとくしまづくり①

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 下水道・農業集落排水・合併浄化槽の普及により、清潔で快適な生活環境が確保され、工場・事業所での排水対策も徹底されています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 下水道の整備を促進するとともに、街の緑や花を増やすなど、四季を身近に感じられるまちづくりの推進。
- 吉野川や那賀川をはじめとした世界に誇る徳島の水環境を未来に引き継いでいかなければならない。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

美しく快適な生活環境

- ◎ 多くの事業者が、自らの責任を自覚しながら自主的に環境負荷の低減に努めており、このような環境に配慮する運営姿勢は地域社会からも高く評価され支持されています。
- ◎ 工場等からの排水対策の徹底、排水浄化技術の向上や汚水処理人口の増加により、全国に誇る海、川の水質がさらに向上しています。
- ◎ 地域の実情に応じた、下水道・農業集落排水・合併浄化槽等の普及が進み、清潔で快適な生活環境が向上しています。
- ◎ 工場等からのばい煙や自動車の排気ガスによる大気汚染が大幅に改善され、誰もがきれいな空気を楽しみながら暮らしています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 学校や地域、事業所に対する環境学習を通じて、環境を大切にしようとする意識を社会全体に醸成していきます。
- ◎ 下水道をはじめとする汚水処理の「意義」や「大切さ」について、広く県民に対し、あらゆる機会を通じて、普及・啓発を実施します。
- ◎ きれいな海、川を守るため、旧吉野川流域地区における流域下水道をはじめ、下水道や合併処理浄化槽等の整備を進めるとともに、処理施設の日常の維持管理や接続率の向上など、地域一体での取組を推進し、汚水処理人口を増やします。
- ◎ 工場等からの化学物質の排出による周辺環境への影響を最小化するため、事業者の適切な自主管理を促進するとともに、地域社会との情報共有、意思疎通が図られるよう支援します。
- ◎ 大気、水、土壌における汚染状況を迅速かつ的確に把握するため、より効率的な環境監視体制の整備を進めるとともに、事業者による自主的な公害防止の取組を促進します。

IV 環境首都とくしま

3 安全で快適なとくしまづくり②

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 街や周辺地域では、自然や歴史・文化に根ざした景観整備が行われ、個性的で魅力的な地域が形成され、市街地では緑豊かな美しい都市環境の中で快適な都市生活が実現しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 川を活かしたまちづくり（護岸整備、川に向けた店舗、水上バス）の推進。
- ニューヨークのセントラルパークのように、100年後を見据えた自然環境の保全・創造、街・景観づくりを進める思想と取組が根付いた徳島の実現。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

豊かな自然環境と美しい景観

- ◎ 街路等の都市施設において緑化が進み、住民参加による緑化と相まって、緑豊かな美しい地域景観が形成されつつあります。また、都市公園の緑と河川とが一体となった潤いある景観が形成され、水辺の遊歩道や舟運の活用により、県内外の人々で大いに賑わっています。
- ◎ 徳島のおおらかな自然、歴史、文化等の特性を活かした良好な景観が形成され、地域住民の景観に対する意識が高まっています。
- ◎ 住民と行政が協働し、自然や歴史、文化に根ざした景観整備が行われ、個性的で魅力的な地域が県下に広がっています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 地域の自然環境やまちなみと調和した良好な地域景観が形成されるよう、景観に配慮したまちづくりを進めます。
- ◎ 市町村の景観形成への支援として、景観に関係する様々な分野の専門家である景観アドバイザーの市町村への派遣を推進します。
- ◎ 地域住民の景観に対する意識を高めるため、専門家を招いての講習会やワークショップを取り入れ、徳島の良好な景観づくりのリーダーとなる人材や団体の育成を図ります。
- ◎ 住民と行政が協働で道路景観の向上を図り、地域の歴史・文化や自然を活かした地域づくりを支援する「とくしま風景街道」の取組を推進します。

IV 環境首都とくしま

4 自然共生社会とくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 天然ブナ林、数多くの清流、サンゴの見られる海洋など、全国に誇れる豊かな自然環境は、将来世代へと大切に引き継がれています。
- ◇ 間伐が進んだ森林では、スギ・ヒノキの大木のもとに草花が繁茂し、多種多様な生物が生息しています。ブナ林などの貴重な自然林は大切に守られ、ツキノワグマ・ニホンカモシカなど希少動物の生息エリアが拡大しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 絶滅危惧種が保護され、自然豊かな地域で、人間が様々な生物と共存している社会を実現。
- シカやイノシシ、サルなどによる農作物の被害防止を図り、中山間地域においても、安心して農作業に従事できる環境が必要。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

生物多様性確保と鳥獣適正管理

- ◎ すべての県民が本県の豊かな恵みをもたらす多様な自然環境を保護・保全する意識を持ち、人と自然とが共生する住みやすい社会が実現しています。
- ◎ 狩猟者も増え、野生鳥獣が適正な個体数に調整されており、農産物や希少植物の被害もなく、人と野生鳥獣が共生する社会が実現しています。
- ◎ 希少野生生物のうち絶滅が危惧されていた種について、県民の熱意ある保護活動により、生息数が増加に転じています。
- ◎ 農山村地域においては、多様な担い手による農業生産活動の継続により、農業の持つ水源の涵養や自然環境の保全、伝統文化の伝承などの多面的機能が維持され、地域住民はもちろん都市住民の憩いの場となっています。
- ◎ 本県の特色である豊かな自然が保全され、県立自然公園をはじめ優れた自然景観を楽しむ人が増えています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 本県の特性を活かした「徳島県版生物多様性地域戦略」を策定し、本県の豊かな生物多様性の確保に努めます。
- ◎ 希少野生生物や保護活動に関する知識の習得の機会を増やすこと等により、生物多様性に対する県民意識を醸成していきます。
- ◎ 特定外来種についての基礎調査を行い、生息状況を明らかにするとともに、防除方法や手続きを普及啓発し、生態系や人の生活に影響を与える外来種を減少させます。
- ◎ 本県の農林産物や貴重な植生を守るため、「特定鳥獣保護管理計画」を策定し、集中的な捕獲の実施などにより野生鳥獣等の捕獲を促進するとともに、効果的な保護施策を推進します。
- ◎ 生産活動の促進や農山漁村の活性化を図るため、サル、イノシシ、シカ、カワウなどの鳥獣被害防止対策を関係機関等と連携し総合的・広域的に実施します。
- ◎ 本県の優れた自然景観等を有する自然公園については、その景観に配慮した整備を進め、より多くの人々が利用できるよう努めます。

IV 環境首都とくしま

5 豊かな森林とくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 間伐が進んだ森林では、スギ・ヒノキの大木のもとに草花が繁茂し、多種多様な生物が生息しています。広葉樹林化も進み、針葉樹に混じったモミジやヤマザクラなどが美しい森林景観を形成しています。
- ◇ 放置里山林は手入れされ、森林浴など癒しのエリアとして都市住民が積極的に活用しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 土地（木）との里親制度を設け、枝打ち等の管理を当該里親に実施（里親からの資金によって実施）してもらうとともに、伐採した木材は里親の家等の建築に利用いただくなど、多様な手法によって森林整備の促進を図る。
- 良い環境をつくるには、まず良い山をつくるべき、健康な森林づくりこそが愛される徳島のもとである。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

未来につなぐ豊かな森林（もり）

- ◎ 間伐や複層林などの整備が進み、水源かん養や土砂流出防止、二酸化炭素の吸収源など公益的機能の高い健全な森林が増加しています。
- ◎ 管理放棄森林の解消や、国際的な資源争奪戦から森林を保全するため、県民や企業と協働した森を守る活動が活発に行われています。
- ◎ 関西広域連合共通のカーボン・オフセット制度や全国的な排出量取引制度の受け皿として本県の豊かな森林が活用され、活発な森づくり活動が展開されています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 県・市町村・林業関係者、さらには県民や企業・NPOなど一体となった体制のもと、森林保全に向けて、県民総ぐるみの取組を展開します。
- ◎ 多様で健全な森林を育成するため、間伐や広葉樹林の整備、複層林への誘導など計画的な森づくりを推進します。
- ◎ 森林の持つ公益的機能を維持し、適切に管理・保全していくため、保安林の指定による公的管理や、森林整備法人による受託管理を推進します。
- ◎ 将来の世代へ豊かな森林を継承するため、カーボン・オフセット制度による企業や県民と協働した森づくり活動や、森林のCO₂吸収量を活かした排出量取引（J-V E R）制度の導入を推進します。
- ◎ 県営発電所水源地区において、公有林化を支援するとともに、山林の整備に貢献します。

V みんな生き生きとくしま

1 安心子育てとくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 社会にとっても会社にとっても子育て環境の整備は不可欠という意識が広がり、企業は子育てと仕事の両立に熱心に取り組み、男女とも子育てにあわせて休暇を取ったり、短時間勤務や在宅勤務など多様な働き方を選んだりしています。
- ◇ 経験豊富な高齢者のボランティアによる地域の子育て支援も活用できます。
- ◇ 社会全体で子育てを支える「子育て協働支援社会」が進み、合計特殊出生率が人口置換水準に回復しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 家庭教育の充実により「結婚して子どもを育てるのは楽しいことだ」と理解させることが必要。
- 小学校低学年の児童を対象に、各地域に放課後教室等の充実を図り、共働きなどで昼間に保護者がいない家庭も安心して、子どもを産み育てることができる社会をつくる。
- 行政や地域の人たちが子育てのサポートをしてくれる社会が実現すると、安心して子どもが産める。県外から若い人たちを呼び込む際にも、周りのサポートがなければ不安であり、この部分のサポートがあれば、人口が増え、明るい未来につながる。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

みんなて子育て協働支援社会

- ◎ 親子がともに学び・育つ環境が整うとともに、社会全体で子育てを支援する気運が高まり、地域の子育て力が充実しています。
- ◎ 結婚や子育て、地域活動に積極的な若者が増え、街には子どもの声があふれ、いきいきとした地域社会が実現しています。
- ◎ 誰もが希望する質の高い幼児教育と保育サービスを受けるとともに、子どもたちが放課後を安全な場所で過ごしています。
- ◎ 子育て家庭に対する支援や、仕事と家庭が両立しやすい仕組みが整い、子育ての負担感が減少することにより、男女とも安心して子育てを行っています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 子育てを家庭だけの問題にとどめず、地域社会、行政、企業といった社会全体で支え合っていく「子育て協働支援社会」を目指します。
- ◎ 若者に対し、結婚や子育て、地域活動が人生を豊かにするという考え方の浸透を図るとともに、男女の出産の場づくりを進めます。
- ◎ すべての子どもを対象として、適切な保育や必要な幼児教育を提供するとともに、放課後の安全な子どもの生活の場の確保を図ります。
- ◎ 育児不安解消に向け、情報交換や身近な相談先として、市町村ごとに中核的な地域子育て支援センター（拠点）の整備・充実等を図るとともに、育児疲れの時などに保護者に代わり保育施設で預かることにより、子育ての負担を軽減します。
- ◎ 乳幼児等の病気の早期発見、早期治療や子育て家庭の経済的負担の軽減を図ることにより、安心して、子どもを産み育てることのできる社会づくりを実現します。
- ◎ 父親が子育てに積極的に参加できるよう、子育てを支援する職場環境の整備や、多様な就労形態を選択できる社会を目指します。

V みんな生き生きとくしま 2 高齢者生き生きとくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 障害者、高齢者の日常生活の質や社会参加は大幅に向上し、介護者の負担も軽減されています。
- ◇ 自分のライフスタイルを自己決定できることを、「自立」ととらえる考え方が浸透し、また、24時間対応の介護医療体制が整備され、安心して生活できます。
- ◇ 高齢者は、「年金兼業で働く生き方」、「社会貢献的生き方」、「趣味的生き方」など、多様な生き方による充実した生活を送りながら地域社会を支えています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 高齢者の知識や経験を活かし、指導者を指導する立場として、社会貢献することにより、高齢者が生きがいを持ち、生涯現役で過ごせる社会を実現。
- 介護人材を確保するため、中学校に介護のカリキュラムを取り入れ、資格取得等につなげる。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

心豊かな長寿社会

- ◎ 「長寿社会・先進県」として、すべての県民が安心して高齢期を迎えられ、生涯にわたり健康で生きがいを持ち、安心して暮らせる社会が実現しています。
- ◎ 高齢者がこれまで培ってきた、「知識」、「経験」、「能力」を活かし、地域社会の様々な分野で社会の一員として、はつらつと元気に活動しています。
- ◎ 「学び」・「実践」・「貢献」にチャレンジする、「元気高齢者」が増え、「生涯現役」で活躍しています。
- ◎ 介護が必要な状態となっても、住み慣れた地域で、自分らしさや生活の質を保ちながら、多様なニーズに対応した質の高い、介護サービスが提供されています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 地域の課題や高齢者のニーズを的確に反映した、新たな「徳島県高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画」（とくしま長寿プラン）を策定し、豊かな長寿社会づくりのための高齢者対策を推進します。
- ◎ 高齢者が創造的で心豊かな生活を送るため、生きがいづくりを支援するとともに、それぞれの地域で、様々な地域福祉に関わる活動を指導するリーダーを養成します。
- ◎ 価値観が多様化する中、社会状況の変化に対応して新たな知識や技術の習得が必要となることから、高齢者の多様な学習機会の創出を行います。
- ◎ 多くの高齢者が社会貢献活動や就労など多様な形で「地域活動」の主役となって、「生涯現役」で活躍していただけるよう支援等を行います。
- ◎ 介護が必要な状態となっても、住み慣れた地域で安心して生活を送るため、医療と連携した「24時間365日対応」の介護サービスの整備を行います。
- ◎ 質の高い介護サービスの提供のため、介護サービス従事者の人材養成、資質の向上を図ります。
- ◎ 教育委員会及び関係団体等と連携し、中高生が介護の大切さを理解し、「介護体験」ができる機会の提供を行います。

V みんな生き生きとくしま

3 障害者生き生きとくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 障害者、高齢者の日常生活の質や社会参加は大幅に向上し、介護者の負担も軽減されています。
- ◇ 自分のライフスタイルを自己決定できることを、「自立」ととらえる考え方が浸透し、また、24時間対応の介護医療体制が整備され、安心して生活できます。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 障害のある方の雇用の場を確保することなどにより、障害の程度に応じた自立を支援し、障害のある方が地域や社会との関わりをもつことができる体制をつくる。
- 本人の自立をサポートする支援センターの設立を促し、障害者が元気で暮らすことの出来る社会を実現する。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

障害者が自己実現できる社会

- ◎ 障害者が自らの能力や障害特性に応じ働く場を確保できるとともに、自らが選んだ地域で安全・安心に暮らし、社会の中で生き生きと生活することができるよう、就労支援、地域移行・地域生活支援、コミュニケーション支援等の必要なサービス提供体制が整備されています。
- ◎ 多くのスタッフが相互に連携し、活躍することで、障害者が自ら描いたライフプランが実現しています。
- ◎ 障害のある人もない人も自由に交流し、一緒になって活動できる豊かな社会が築かれています。
- ◎ 県民のすべてが「発達障害」を正しく理解し、発達障害者が仕事を持って、日々充実した暮らしを送っています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 民間企業と公的機関が連携して障害者の一般就労を推進するとともに、就労支援事業所等で生産された製品のブランド化を進め、さらなる工賃アップを図ります。
- ◎ 障害者の地域生活の核となるグループホーム等の整備、地域生活を支える相談支援や緊急時24時間サポート体制等の整備を推進します。
- ◎ 障害者の自立を支援する力ある人材を養成するため、充実した内容で、実践的な研修を実施します。
- ◎ 「障害者交流プラザ」を活用し、スポーツや芸術・文化活動等を通じて、障害者が積極的に社会参加し、障害のある人もない人も大いに交流できる仕組みづくりを推進します。
- ◎ 「発達障害者総合支援ゾーン」における専門的な相談支援・就労支援の体制を確立するとともに、地域の実状に応じた、きめ細やかな支援体制を確保するためのサテライト拠点の構築を推進します。

V みんな生き生きとくしま 4 ユニバーサルとくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 民間施設も含めユニバーサルデザインの考え方が浸透し、誰もが安全で安心して快適に利用できる施設になっています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- ユニバーサルデザインに関する取組を一層推進し、少子高齢化社会に対応。
- 様々な施設のバリアフリー化を進めることにより、高齢化社会に対応。
- 外国人観光客のため、デザイン性のある統一した案内表示が必要。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

みんなが快適ユニバーサル社会

- ◎ 障害の有無、年齢、性別等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境を整備する考え方にに基づき、すべての人が暮らしやすい社会を実現するための取組が進められています
- ◎ 施設の整備を通じた「街づくり」、製品の製造による「ものづくり」、すべての人が必要な情報を簡単、快適に利用できる「情報環境づくり」、啓発活動等による「意識づくり」を通じて、ユニバーサルデザイン化の取組が、私たちの社会に深く浸透してきています。また、地域に暮らすすべての人が住みやすくなることで、観光・交流で訪れる外国人を含めた県外客も過ごしやすくなっています。
- ◎ 誰もが快適に暮らせるユニバーサルなまちづくりが進み、安全・安心な施設整備が促進されています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ とくしまユニバーサルデザイン県民会議を通じて、県民、事業者、行政の各主体が緊密に連携・協働し、それぞれの役割に応じて、積極的かつ主体的にユニバーサルデザインの推進に向けた取組を実践します。
- ◎ 県民及び事業者の意識の高揚及び知識の普及を図るため、ユニバーサルデザインの先駆的・モデル的取組について表彰するなどの啓発活動を推進し、すべての人が暮らしやすい社会の実現を目指します。
- ◎ 歩行者や自転車利用者が安全に通行できる歩道等の整備や事故抑止対策として交通安全施設の重点的整備を推進するとともに、誰もが利用しやすい公共交通機関を実現するため、利便性、快適性の向上を図ります。
- ◎ 多くの外国人旅行者が快適に移動できるよう、主要な観光地において、これまでの日本語・英語の2カ国語表記に加え、さらに多言語化した歩行者用案内標識の整備を推進します。

V みんな生き生きとくしま

5 共助・共生とくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 高齢者や障害者など福祉サービスを必要とする人は、多様な福祉サービスを利用しながら、住み慣れた地域で、その人らしい生活を営んでいます。地域社会も、ICT等を活用しながら、高齢者等の見守りや相談活動に熱心に取り組み、一人暮らしの人でも、孤独感に陥らないぬくもりのある地域社会が形成されています。
- ◇ 助け合いは世代を超えて循環し、地域コミュニティの絆も強まっています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 介護のボランティアの充実・組織化を図るなど、地域の高齢者は地域で面倒をみることができる仕組みづくりが必要。
- 障害者や高齢者が安心・安全に暮らせる地域づくり。
- ペットの正しい飼い方の啓発や相談体制の充実により、無責任な飼い主をなくし、人間と動物が共生できるまちづくりを進める。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

心通いあふ温かな地域

- ◎ 地域の住民同士がお互いを大切な存在として、助け合いながら、「地域づくり」を行うことで「地域の絆」が深まり、ひとり暮らし高齢者や認知症高齢者、障害者等が住み慣れた地域で安心して生活しています。
- ◎ 県民一人ひとりの動物愛護意識の高揚が図られ、動物の命を大切に思う意識が浸透し、人と動物がともに暮らせる地域社会が実現されています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 地域住民等の参加を得て、誰もが、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域社会を実現するため、「徳島県地域福祉支援計画」を策定するとともに、市町村の「地域福祉計画の策定」を促進し、地域福祉の推進を図ります。
- ◎ ひとり暮らし高齢者等を見守るためのネットワークの充実強化を図ります。
- ◎ 地域の住民が認知症について理解し、地域全体で認知症高齢者を支えていくための支援体制の推進を図ります。
- ◎ 高齢期を迎えても、生活の質が維持できるよう、介護予防の普及啓発や介護予防リーダーの養成など介護予防に重点を置いた健康づくりを推進します。
- ◎ 県民が障害への理解と認識を深め、みんなが助け合って生活できるよう、手話や点訳等の専門的知識・技能を有するボランティアをはじめ、障害者の地域生活を援助するサポーターの育成を推進します。
- ◎ 動物愛護推進員やボランティアの育成と人材確保を図り、犬ねこの譲渡の推進、動物ふれあい活動等により、人と動物がともに暮らせる地域づくりを推進します。

VI まなびの国とくしま

1 まなびの国とくしまづくり①

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 幼小中一貫教育、少人数指導で子どもたちは基礎を確実に身につけ、個性と能力を伸ばしています。高校では、特色ある学校づくりが進み、自分の能力・適性を生かせる学校を選択できます。徳島から世界を舞台に活動する人材を輩出しています。
- ◇ 不登校の子どもにも対応する多様な教育体制が整えられています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 少人数学級や複数の指導者による授業を行うことにより、多様な子どもたちの個性に対応できる学校教育を進める。
- すべての子どもにとって、学校生活が楽しいものとなるような学校づくりを進める必要がある。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

魅力と特色のある教育環境

- ◎ 少子高齢化や過疎化などの社会状況の変化に対応した特色と魅力ある教育が、総合的・効果的に展開されています。
- ◎ 将来を見据え、広い視野で、時代に即した専門性や高度な産業教育を受けることができる学習環境が整っており、大学や産業界において即戦力となる優秀な人材が育成されています。
- ◎ すべての子どもたちが基礎学力はもとより、思考力・判断力・表現力等、「確かな学力」を育み、生き活きとした学校生活を送り、心豊かに成長しています。
- ◎ 電子黒板・タブレット端末等のデジタル教材を活用した教育が浸透するとともに、教育用デジタルコンテンツが充実し、過疎化のハンディをはねかえす「強い教育」が展開されています。
- ◎ 児童生徒一人ひとりが生き活きと活動でき、「心の居場所」となる魅力のある楽しい学校づくりが図られています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 新しい時代に対応した、本県教育の指針となる新たな「徳島県教育振興計画」を策定し、その着実な推進を図ります。
- ◎ すべての小・中学校において、各学年の特性に応じ、少人数学級編成や少人数指導の充実を図るとともに、専科教員（理科・英語等）の配置を進めることなどにより、児童生徒に対するきめ細やかな教育を推進します。
- ◎ 各高等学校が将来にわたり多様な教育や部活動を実施し、活力ある教育活動を展開していくため、地域の知恵を活かしながら高校再編を推進するとともに、地域の発展に貢献する人材を育成するため、時代に応じた学科再編や新学科の設置を行います。
- ◎ 産業分野の新たな変化が進む中、農商工の個々の専門分野の垣根を越えた教育を展開します。
- ◎ 生徒や保護者が一貫した学習環境の下で学ぶ機会を選択できる中高一貫教育を推進するとともに、小・中学校が連携した教育の展開など、生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばす教育活動のより一層の充実を図ります。
- ◎ 教育のあらゆる場面でICTを活用できるよう、ICTを活用した授業実践についての教員研修を充実させるとともに、デジタル教材の導入促進や教育用デジタルコンテンツの充実により、情報教育を推進します。
- ◎ 児童生徒のいじめ・不登校や問題行動等の解決を図るため、教員をはじめ教育に携わる多様な関係者一人ひとりがより一層連携し、やさしさや思いやりを育む豊かな教育の推進を図ります。

VI まなびの国とくしま

1 まなびの国とくしまづくり②

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 自分たちの郷土に誇りを持ち、教養豊かで国際性に富んだ若い世代が社会に輩出しています。また、小学校から職業体験などのキャリア教育が行われ、子どもたちは「働く」ことへの関心と意欲を高め、しっかりとした職業観を身につけています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 小中高校で英語以外の第二外国語（中国語など）を学べるようにし、国際人として活躍できる人材を育成。
- グローバル社会で必要となる自国の文化や伝統を説明できる能力など特色のある教育システムを構築。
- 思いやりや助け合いの精神を育むため、学校・家庭・地域が連携し、道徳教育を充実する必要がある。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

郷土愛に満ち自立したたくましい子どもたち

- ◎ 児童生徒が多様な外国語を身に付け、アジア諸国をはじめとする外国の子どもたちと積極的に交流活動を行うなど、国際的視野に立って行動できる人材が育っています。
- ◎ 地域の歴史、芸術・文化、伝統や道徳などを学習する機会の充実を図るとともに、日本や世界で活躍した本県の数多くの「偉人」の英知や偉業に関する理解を深める教育の推進により、ふるさと徳島県に誇りと愛着を持ち、地域の活性化と発展に貢献する人材が育っています。
- ◎ 児童生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、小中高一貫したキャリア教育により、すべての子どもたちが、自分自身の将来を見据え、社会人としての夢を生き生きと育てています。
- ◎ 学校・家庭・地域において、すべての子どもたちが積極的に運動に親しむ習慣が定着し、「健やかな体」を育てています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 英語教育のさらなる充実とともに、多様な外国語教育を推進することにより、児童生徒のコミュニケーション能力を高め、体験的学習などを通して、自国と外国の文化の違いを認め合い、多面的な価値観を理解し、国際的な視野に立って行動できる児童生徒を育成します。
- ◎ 地域の歴史、芸術・文化、伝統や道徳などを学習する機会の充実を図り、児童生徒の郷土を愛する心を育成します。また、様々な分野の「郷土の偉人」を発掘し、その業績等を学ぶことにより、徳島を誇りに思い、郷土や社会の発展のために積極的に行動する「ふるさと教育」を推進します。
- ◎ 産学官が連携し、職業体験や就業体験等のキャリア教育を推進することにより、児童生徒が勤労観や職業観を各発達段階に応じて学べる環境を整えます。
- ◎ 低位にある体力や肥満傾向児出現率の高さといった課題を改善するため、運動機会を増やす環境づくりや運動部活動の充実、望ましい生活習慣の定着などを図ります。

VI まなびの国とくしま

2 個性尊重とくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 障害のある子どもたちは、希望する学校で、教育ニーズに応じたきめ細かな教育を受けながら、個性や能力を最大限に伸ばしています。
- ◇ コミュニティ・スクールなどの多様な教育制度が導入されるとともに、ICTを活用したホームスクールなど、障害のある子どもにも対応する多様な教育体制が整えられています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 特別な支援を必要とする子どもに対し、自立を支援する教育を充実させることが必要。
- 障害のある子どもたちの支援について、保育所・幼稚園・小中学校など、関係機関の連携強化が求められる。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

一人ひとりを尊重する特別支援教育

- ◎ 特別な支援を必要とする幼児・児童生徒についての理解・啓発が進み、各地域において関係機関の連携による支援体制が構築され、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援が充実しています。
- ◎ 発達障害者の「自立と社会参加」を進めるため、福祉・教育・医療の各分野で連携支援するハナミズキ・プロジェクトにより、病弱又は知的障害を伴う発達障害の生徒が、商業ビジネス、情報デザインなどの専門教育や事業所等での就業体験によって、自分自身の能力や可能性を高めながら生き活きと成長しています。
- ◎ 盲・聾学校在籍者、多様な専門性を有する両校教員の相互補完により、障害の重度・重複化等に対応したきめ細やかな支援や教科指導の充実が図られるとともに、学校行事や放課後活動の合同実施など、より効果的な教育活動が推進されています。
- 県民すべてが「発達障害」を正しく理解し、発達障害者が仕事を持って、日々充実した暮らしを送っています。(再掲)

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 幼児・児童生徒一人ひとりの「個別の教育支援計画」を策定し、幼稚園から高校まで継続的で一貫した支援を推進します。
- ◎ すべての市町村において「市町村特別支援連携協議会」を設置することにより、関係機関の連携による支援体制を全県的に構築します。
- ◎ 盲・聾学校在籍者、両校教員の連携・協働により、幼児・児童生徒一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育を展開します。
- ◎ 高等学校段階においては、発達障害等のある生徒の社会的・職業的自立に向けた専門的な教育を推進するため「徳島県立みなと高等学園」を設置し、県下全域における特別支援教育の充実を図ります。
- ◎ 「徳島県立みなと高等学園」に、病弱・知的障害の障害部門ごとに商業ビジネス、情報デザイン、生産サービス等の学科を設けるとともに、事業所等での就業体験を積極的に行うことにより、ICT関連業等への就業など、生徒自身の適性に合わせた就労支援を推進します。
- 「発達障害者総合支援ゾーン」における専門的な相談支援・就労支援の体制を確立するとともに、地域の実情に応じた、きめ細やかな支援体制を確保するためのサテライト拠点の構築を推進します。(再掲)

VI まなびの国とくしま

3 みんなのまなびやとくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 子どもたちは、家庭をはじめ学校や地域など社会全体で大切に育まれており、日常的に多様な人と関わり、自然と触れ合うことで、豊かな人間性や社会性を身につけています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 地域の自然や人材を積極的に活用し、子どもたちにコミュニケーション能力や協調性を身につかせる取組が必要。
- 幼い頃から、地域の文化や伝承に触れることが重要であるため、地元の伝統行事を支援することはもとより、伝統行事等を学校教育に取り入れることなどにより、早くから伝統文化に親しんだ子どもたちの人数を多くすることで、地元の伝統・文化を将来に残していく人材の育成を図る。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

子どもを支える地域の教育力

- ◎ 住民同士が「地域の子どもを地域ぐるみで育てる」という共通の課題について共有し、ともに行動しようとする強い絆づくりが進み、それぞれの地域で、子どもたちがみんなで元気に遊び、学び、成長しています。
- ◎ 各高等学校が「地域の教育・文化の創造拠点」として、地域社会と連携協力して生徒の主体的な活動を引き出し、そうした活動が個性や魅力となり、地域に根ざし、地域に貢献する学校づくりが進んでいます。
- ◎ 地域において、子どもたちがすぐれた音楽、芸術、スポーツなどにふれあうことや、自然体験や伝統芸能などの様々な体験をすることにより、自分の夢や希望を主体的に見つけることができる環境が整っています。
- ◎ 地域、学校、家庭、関係機関の連携が深まり、防犯・交通安全・防災対策の取組が総合的・効果的に行われ、それぞれの地域で子どもの笑顔があふれています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 社会教育団体をはじめ地域の協力により、子どものふれあいや体験の機会の提供を促進するなど、学校・家庭・地域の連携による教育支援活動を充実させ、地域の教育力の向上を図ります。
- ◎ 「地域の教育・文化の創造拠点」として、地域とともに歩むオンリーワンハイスクールの育成をより一層推進し、学校の地域貢献と地域の教育力の活用を促進します。
- ◎ 地元で活躍する音楽家、芸術家、スポーツ選手などと小中学生がふれあう機会や、地域の自然や伝統芸能などを体験する機会をすることにより、子どもたちの夢を育み、郷土への誇りを育てます。
- ◎ 防犯・交通安全・防災対策の取組をより効果的なものとするため、地域住民の参画により学校安全を総合的に支援する体制を整備し、子どもの安全安心の確保を図ります。

VI まなびの国とくしま

4 生涯まなびとくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 誰もが自由に学習機会を選択して学ぶことができ、様々な人々が積極的に能力開発にチャレンジし、また、学んだ成果を地域社会に還元します。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 今後一層の高齢化を見据え、コストをかけずに全県的に生涯学習を推進する必要があり、誰もが気安く学べる場が、身近にできることにより、結果として高齢者の引きこもりを防ぎ、医療費の削減にもつながる。
- 地元食材を使った給食の推進。
- 食育の認知度を上げるため、小学生による料理コンテストや小学生と生産者の交流促進、給食センターの見学や「あすたむらんど」での地産地消メニューの販売などに取り組む。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

ニーズを捉える充実した生涯学習環境

- ◎ 県民ニーズや社会潮流等に即した講座等の充実が図られるとともに、人生の多様な時期に多彩な方法で学習可能な環境が整備されています。
- ◎ 学んだ成果が、講師やボランティア活動等を通じて積極的に地域社会に還元され、さらなる生きがいづくりや地域活性化につながっています。
- ◎ 本県の自然、歴史、文化、人物など、郷土や地域の特性に根ざした学びの場が増え、故郷や国を愛する心を育むとともに、学習成果を本県教育の振興と特色ある地域づくりにつなげることのできる質・量ともに充実した生涯学習社会が実現しています。
- ◎ 食を大切に考え、食に関する正しい知識や技術を身につけ、県産農林水産物を取り入れた健全な食生活が実現しているとともに、地域で守られてきた郷土食や行事食など、食の文化や伝統に対する理解と関心が深まっています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「徳島県立総合高等学校（まなび一あ徳島）」において、高等教育機関や企業、NPO、市町村等の関係機関との連携を一層推進し、より充実した生涯学習情報をワンストップで提供することにより、県民の生涯学習活動を総合的に支援するとともに、県民ニーズや社会潮流を捉えた講座の充実を図ります。
- ◎ 新たなスタイルの講座を充実させることなどにより、誰もが、いつでも、どこでも学ぶことができる仕組みを整えます。
- ◎ 「新しい公共」の担い手として、徳島県立総合高等学校をはじめ各種講座等で学んだ生涯学習の成果をこれからの地域社会を支える具体的な活動に活かすために必要な知識・技能等を習得する場をつくります。
- ◎ 学校における食育をさらに充実するとともに、学校給食が生きた教材として活用されるよう、地元の旬の食材を取り入れるなどの取組を進めます。
- ◎ 豊かな食材に恵まれ、生産者と消費者の距離が近い本県の特性を活かし、食を通じ、子どもから大人までのあらゆる世代において食育を推進します。

VI まなびの国とくしま

5 青少年育成とくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 子どもたちは、家庭をはじめ学校や地域など社会全体で大切に育てられており、日常的に多様な人と関わり、自然と触れ合うことで、豊かな人間性や社会性を身につけています。
- ◇ 健全な価値観と規範意識に裏付けられた「大人のわきまえ」とも言える良識ある意識と行動が世代を超えて浸透しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 若い人が生き生きと活動できるきっかけづくりの推進。
- 子ども達の支援のために、青少年育成センターと学校との連携を深めてもらいたい。
- 若い人が社会奉仕活動に自主的に参加するような公德心を育てる指導者の育成。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

青少年はつらつ社会参画

- ◎ 学校や地域など様々な場所において、将来の夢を育むために必要な知識や経験を得ることができ活動や交流の場があり、青少年が自らのアイデアや感性を生かし、起業やソーシャルビジネス、NPO・ボランティア活動など多様な形態で主体的に活動しています。
- ◎ 若者の意見を政策に活かす仕組みが構築され、若者が地域社会に参画し、生き生きと活躍しています。
- ◎ 学校・家庭・地域が連携し、県民挙げて青少年の非行や被害を防止する気運が高まり、あらゆる大人が子どもたちを見守り、支援する体制やネットワークが整い、子どもたちは健やかに成長しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 新たな「青少年の健全な育成に関する基本計画」を策定し、青少年施策を総合的かつ計画的に推進します。
- ◎ 高校や大学・専門学校と連携し、起業やソーシャルビジネス、NPO、ボランティア活動などにつながる授業や講座を開設し、青少年が社会に出る前から様々な活動に参加できる場を作ります。
- ◎ 青少年が自分の進路や職業を選択するにあたり、気軽に相談ができ、刺激を受けることができるよう、若手の企業家や社会人との交流の場を作り、青少年の主体的な自立を促します。
- ◎ 青少年活動の拠点施設である「とくぎんトモニプラザ」において、青少年が様々な体験や、あらゆる世代の人々と交流できる機会や場を提供し、青少年の自主的な活動を促進します。
- ◎ 携帯電話やICTを活用したコミュニケーション手段の促進や、大学生等の審議会等への登用を促進することにより、若者の意見を政策に活かす仕組みを作ります。
- ◎ 青少年の育成や非行・被害防止、また自立に困難を有する若者を支援するため、地域における多様な担い手を養成するとともに、子ども・若者の支援ネットワークづくりを進めます。
- ◎ 青少年に有害な環境を浄化するため、青少年健全育成条例を適正に運用するとともに、携帯電話やインターネットを通じての被害から青少年を守る取組を推進します。

Ⅶ 宝の島とくしま

1 誰もが主役とくしまづくり①

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 差別のない、ぬくもりのある地域社会が築かれ、自己実現の機会を阻害されず、多様な文化や価値観の違いを認めあい、それぞれが個性や能力を十分発揮し、「ここに生まれてよかった、住んでよかった」と実感しながら生活しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 人の温かさなどを養うには、教育が重要であり、これは人権教育に集約される。今後、根本的に教育を見直すことが必要。
- 県民一人ひとりが、お互いを理解し合い、ともに支え合っていることを実感できる地域づくりが大切である。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

すべての人の人権が尊重される社会

- ◎ 県民一人ひとりが、生命の尊さや人間の尊厳を認識し、性別や国籍の違い、障害の有無などで生まれたかなどにかかわらず、自分がかけがえのない存在であること、また、他人もかけがえのない存在であることを実感し、それぞれが個性や能力を十分発揮できる「誰もが主役のとくしま」が実現しています。
- ◎ 学校・家庭・地域が連携し、日常生活の様々な機会を通して、多様な主体が自主的に参画する交流学習・体験活動などが活発に行われ、一人ひとりを大切にすることが県民に定着しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 国、市町村、NPO等と連携を図りながら、県民の人権意識の高揚と様々な人権問題の解決に向けて、「徳島県人権教育・啓発に関する基本計画」を着実に推進します。
- ◎ 県の人権教育啓発推進の中心的拠点である「人権教育啓発推進センター（あいぼーと徳島）」において、県民一人ひとりの生活と深くかわり、自分の課題として認識を深めるために、人権尊重の視点から身近な問題を考える人権教育啓発事業や相談等を行い、人権尊重の社会づくりを進めます。
- ◎ 人権フェスティバルなどを開催することにより、誰もが気軽に参加でき、明るく楽しい雰囲気の中で、多くの県民に様々な人権問題を自分の問題として考えてもらう機会を作ります。
- ◎ 人権に関わるNPOなどの民間団体の育成を図るため、県内の民間団体が企画、実施する人権啓発推進に関する自主的な取組を支援します。
- ◎ 徳島県人権教育推進方針に基づき、幼児児童生徒の発達段階を踏まえ、計画的・系統的に人権教育を推進するとともに、生涯学習の視点に立ち、学校・家庭・地域が連携し、人権に関する多様な学習機会の提供に取り組みます。

Ⅶ 宝の島とくしま

1 誰もが主役とくしまづくり②

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 家庭では男女が協力して家事をし、職場では多様で柔軟な働き方を選ぶことができ、生活と仕事とのバランスのとれた生き方が実現しています。
- ◇ 男女とも個性と能力を生かし、仕事以外でも様々な分野で、生きがいを感じながら活躍しています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 女性が社会の重要な担い手として、能力を発揮し、活躍できる社会を徳島から実現してもらいたい。
- 親による子どもの虐待を防止するため、母親を支える支援団体の設置など、子育て支援を一層強化する。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

男女共同参画とDVや児童虐待のない社会

- ◎ 「男女共同参画社会の形成は、男性にとっても、女性にとっても、より暮らしやすくなるものである」ことの理解が浸透しています。また、男性・女性という性別を理由として役割を固定的に分ける考え方の解消が進んでいます。
- ◎ 地域における男女共同参画が進み、重要な方針や計画等を決定する場への女性の参画が進んでいます。また、家事・子育て・介護・地域活動への男性の参画も進んでいます。
- ◎ 配偶者等からの暴力や児童虐待のない社会が実現し、住み慣れた地域で安心して生活することができています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 地域において男女共同参画の取組が浸透するよう、本県男女共同参画の推進に関する新たな基本計画を策定し、その着実な推進を図ります。
- ◎ 男女共同参画交流センターにおいて、専門的な相談機能・研修機能を拡充・強化し、男女共同参画を地域で推進する「地域活動リーダー」を育成します。また、その「地域活動リーダー」の活躍により、すべての市町村において、男女共同参画の視点を導入した地域活動の取組を進めます。
- ◎ 男女が、社会の対等な構成員として、個性と能力を十分に発揮できる社会の実現を目指し、特に女性に対するあらゆる暴力の根絶や配偶者等からの暴力の防止を図るため、予防の観点による若年層を対象とした事業など、効果的な啓発を推進します。
- ◎ 配偶者等からの暴力の防止や被害者の救済と自立を図るため、関係機関等との連携強化や民間団体の活動を支援し、協働して地域における活動の充実に取り組みます。
- ◎ 関係機関等が連携して児童の支援・保護を行う「市町村要保護児童対策地域協議会」の活動を支援し、児童虐待の未然防止や早期発見・早期対応に努めます。

VII 宝の島とくしま

2 協働立県とくしまづくり

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 高齢者介護、環境保全、安全・安心なまちづくり、文化など様々な分野でボランティアが活発に活動し、お互いを助け合う地域社会となっています。
- ◇ 身近な生活のニーズに応えるコミュニティビジネスやNPO活動が盛んに行われ、NPOは、企業と同程度の賃金が得られ、働く場としても成り立っています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 地域で頑張る青年層・若者の位置づけ、重要度を改めて見つめ直す必要がある。NPOや青年団など、地域で頑張る人たちへの支援の強化が必要。
- 行政をスリム化するため、防災、福祉、子育て、環境など住民にできることは住民ボランティアに任せる体制を整備。
- 意欲のあるアドプト団体には、にぎわいや憩いのための簡易な施設（スロープ、花壇、ベンチ等）を整備できるようにし、民間活力によりにぎわいスペースの整備を推進。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

みんなで担う共感と協働による社会

- ◎ 県民・企業等は、社会貢献への「志」を実現するため、活発な寄附により本県の多様な社会貢献活動を支えるとともに、社会貢献活動に積極的に参加しています。
- ◎ NPO等の社会貢献活動団体は、県民の支持と参加を集め、自立した団体として、継続的に事業を展開し、地域社会の課題解決に取り組んでいます。また、地域の人を雇用し、収益を上げ、その収益を社会貢献活動に充てる事業型NPOの取組も活発化しています。
- ◎ 様々な分野において、行政とNPO・地域住民等との連携・協働がより一層推進され、「新しい公共」として、地域住民等が地域における身近な社会資本の整備や維持管理を担っています。
- ◎ 農山漁村では、企業、NPO等の団体や県民の社会貢献意識の高まりにより、農作業や保全作業等が地域住民との「協働活動」で行われています。また、相互の交流が進み、「絆」も強まっています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「とくしま県民活動プラザ」による支援の充実・強化により、NPO法人等の自立や、県民の社会貢献活動への参加を促進します。
- ◎ 「とくしまNPO夢・バンク（仮称）」を通して、県民等からの寄附により社会貢献活動を支援する仕組みをつくり、寄附文化の醸成を図るとともに、事業型NPOへの展開支援を行います。
- ◎ これまでの道路、河川などでのアドプトプログラムや地域でのボランティア活動の取組をさらに発展させ、地域住民等が主体的に社会資本の整備や維持管理に参加できる仕組みを整えます。
- ◎ 農山漁村と都市部の組織や住民を結びつけ、協働活動により農山漁村の活性化を図ります。

Ⅶ 宝の島とくしま

3 活力みなぎるとくしまづくり①

◆長期ビジョン編から◆

- ◇ 近畿圏で働き、週末には徳島で生活するという二地域居住も定着し、定住する人も増えています。
- ◇ 農山漁村は、多様な生活者に満ちあふれた活気のある場になっています。

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 空家を安心して賃貸できる仕組みをつくり、U・Iターンの増加により、町を活性化させる。
- 人口減少に抵抗する真っ向勝負の施策により、人口増を目指すべきである。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

人口減少社会に挑戦する個性豊かな地域社会

- ◎ 移住者等への受け入れ態勢が整備され、自然豊かな農山漁村をフィールドに、U・Iターン者が活躍するとともに、都市住民との交流が活発になり、地域の活性化が図られています。
- ◎ 中山間地域の集落では、快適な生活環境の整備により、農林業等の生産活動、地域住民活動も維持され、価値観の変化、多様化により訪れる都市住民も多く、棚田等の美しい原風景が、伝統・文化とともに継承されています。
- 本県の強みを活かした競争力のある産業（「環境・エネルギー」、「医療・介護・健康」分野）において企業誘致が進み、新たな投資や雇用が持続的に行われています。（再掲）
- 就労や技能習得の機会が確保され、すべての労働者が自分に合った多様な働き方ができる社会が実現しています。（再掲）
- 結婚や子育て、地域活動に積極的な若者が増え、街には子どもの声があふれ、いきいきとした地域社会が実現しています。（再掲）
- 親子がともに学び・育つ環境が整うとともに、社会全体で子育てを支援する気運が高まり、地域の子育て力が充実しています。（再掲）

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 移住交流センターの設置や空き家情報の充実、農地の斡旋等の受け入れ態勢の整備を図るとともに、農山漁村での生活や農林漁業体験ができる「農林漁家民宿」や、滞在型市民農園を設置するなど、移住・交流施策を積極的に推進します。
- ◎ 豊かで住みやすい農山漁村地域づくりのため、生産基盤と生活環境基盤の一体的な整備を推進するとともに、地域住民活動の活性化のため指導や助言を行う地域のリーダーを育成支援し、農山村の多面的機能や美しい景観を維持、保全します。
- ◎ 過疎化と高齢化の進む農山漁村集落の地域コミュニティを維持・存続させていくための施策を検討し、地域の魅力あふれる集落づくりを推進するとともに、中山間地域等の高齢者の営農活動を地域ぐるみで支援する体制づくりを推進します。
- 製造業における投資や雇用に対する支援を行うことで、「将来成長が見込まれる分野（「環境・エネルギー」、「医療・介護・健康」分野）」における企業誘致を重点的に推進します。（再掲）
- 若年者やUターン等希望者などに対する相談体制の充実など、県内で就職しやすい環境を整備します。（再掲）
- 若者に対し、結婚や子育て、地域活動が人生を豊かにするという考え方の浸透を図るとともに、男女の出逢いの場づくりを進めます。（再掲）
- 子育てを家庭だけの問題にとどめず、地域社会、行政、企業といった社会全体で支え合っていく「子育て協働支援社会」を目指します。（再掲）

Ⅶ 宝の島とくしま

3 活力みなぎるとくしまづくり②

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 国との役割分担を見直し、地方にできることは地方で担う体制づくりが必要。
- 住民に身近な市町村で、住民の希望に基づいた政策決定が行われる仕組みづくりが望まれている。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

地域が主役の新しい社会

- ◎ 様々な分野で関西が一体となって、お互いを高めることにより、首都東京を要する「関東」に對抗できる「関西」が世界で注目されています。また、四国と近畿の結節点として、徳島は、人や物の流れが活発となるとともに、四国全体が活性化しています。さらに、「関西広域連合」に「国の出先機関」の事務移譲が進められています。
- ◎ 市町村においては、国との役割分担の見直しなどに伴い、権限移譲や行政体制の整備、地方税財源の充実確保など行財政基盤の充実・強化が進み、住民に最も身近な行政主体として、様々な資源や歴史、文化、伝統等を活用した魅力と活力ある地域づくりのための行政サービスが積極的に行われています。
- ◎ 過疎地域においては、身近な交通手段や医療の確保、産業の振興等、生活に密着し地域の課題に応じた各種の対策が県内各地で実施され、住民が安心し、豊かに暮らしていける地域社会づくりが展開されています。
- ◎ 法令等の規制に対し、地域の特性に合った施策を実施するため、「規制の特例措置」を活用することで、地域の潜在的な活力を活かした個性ある地域が創られており、活気にあふれた生活が営まれています。
- ◎ 「徳島の実情」や「地方ならではの知恵や発想（工夫）」を盛り込んだ政策提言が、全国的な制度や施策の随所に反映され、地方が主役を担う新たな国づくりが進んでいます。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「四国」と「近畿」の結節点である徳島の強みを最大限活かし、徳島が関西における医療、文化・観光、環境、防災、産業分野などの取組を先導していきます。
- ◎ 「関西広域連合」を突破口として「国と地方の役割分担の見直し」「国から地方への大幅な権限移譲」など「平成の新しい国づくり」をリードするために、国への積極的な要請や提言を「関西広域連合」から実施します。
- ◎ 住民に最も身近な行政主体として、様々な課題に対し積極的に取り組む「がんばる市町村」を応援します。
- ◎ 市町村において、地域のニーズに応じた行政をより迅速に行えるよう、県から市町村への事務の権限移譲をより一層推進します。
- ◎ 過疎法の延長により策定した「県過疎地域自立促進計画」に基づき、市町村との連携を図りながら、ハード・ソフトの両面から過疎対策を着実に推進します。
- ◎ 複数の規制の特例措置や税制・金融・財政の支援措置などが一体として実施できる「総合特区制度」を活用することで、地域の「資源」や「知恵」を活かし、地域の活力を最大限発揮できる施策を進めます。
- ◎ 徳島発の提言が日本の標準（ジャパンスタード）となるよう、「知恵は地方にこそあり！」との気概のもと、国に対する政策提言を積極的に実施します。

Ⅶ 宝の島とくしま

4 笑顔あふれるとくしまづくり

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- 新町川沿いの水辺の潤いとアニメなどサブカルチャーを組み合わせたイベントをさらに充実させる。
- 「とくしまマラソン」や「ヴォルティス」をさらに有効活用し、健康増進や地域コミュニティの活性化につなげる。
- 関西を訪れる外国人を徳島に呼び込むイベント等を企画する。
- 「はな・はる・フェスタ」を活用・拡大化して、国内外から観光客の誘客を図る。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

四季を通じて笑顔と魅力あふれるまち

- ◎ 徳島の春は「はな・はる・フェスタ」、夏は「阿波おどり」、秋は「とくしま祭り」、冬は「マチ☆アソビ」というように、季節ごとに魅力的なイベントが県内各地で開催され、四季を通じて、県内外からの多くの観光客で賑わっています。
- ◎ アニメイvent「マチ☆アソビ」が中心市街地におけるイベントとして定着するとともに、全国はもとより海外からの集客により、地域経済活性化の牽引役としての役割を果たしています。
- ◎ とくしまマラソンが全国屈指の大会として、人気ランキング上位に定着し、盛り上がりを見せています。
- ◎ 国際会議や全国大会などが、徳島で数多く開催され、海外からも多くの参加者が訪れ、交流の促進による地域の活性化が図られています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 徳島の豊かな自然、食、文化などをまるごと体験できる「とくしま祭り」を、秋の集客イベントとして定着を図るなど、四季を通じたにぎわいの創出を目指します。
- ◎ 県南部及び県西部圏域において、豊かな自然や伝統文化、多彩なスポーツ・レクリエーション施設などの地域資源を活用したイベントの開催を促進し、交流人口の増大を図ります。
- ◎ 中心市街地で開催される他のイベントと連携して「マチ☆アソビ」を定期的で開催し、誘客力を高めるとともに、インターネットを通じて、「アニメ」を活用した徳島の情報発信力を強化します。
- ◎ とくしまマラソンの高い人気を定着させるため、全国からの参加者が楽しく安全に走れる工夫や「徳島ならではの」応援や「おもてなし」を充実するなど常に創意工夫を凝らし、「進化する大会」となるようその魅力向上に努めます。
- ◎ 大学をはじめ様々な機関や団体が開催する大会・会議について、開催の支援を行うことにより、国内外からの誘致を促進します。

Ⅶ 宝の島とくしま

5 希望に向かうとくしまづくり

◆県民のみなさんからの主なご意見◆

- あらゆる角度から支出の無駄を洗い出し、本当に県民が求めている施策に充当すべきである。
- 財政健全化の一層の推進を図る。
- 公務員は税金を預かっている意識を徹底し、経費の縮減と徹底した情報公開に努めるべき。

中期プラン編

〈目指すべき10年程度先の姿〉

不断の行財政改革と県民主役の県政

- ◎ 県を取り巻く厳しい財政状況を乗り越え、広域自治体としての政策力、調整力を、新たな行政課題の解決に発揮し、県民目線に立った県政運営を確立しています。
- ◎ 国に依存した待ちの姿勢でなく、さらなる改善を加えながら財政構造改革に取り組み、財政規律と経済成長が両立しています。
- ◎ さらなる積極的な情報提供と徹底した情報公開が図られ、全国トップ水準の情報公開度による県民参加による公正で開かれた県政が推進されています。
- ◎ 「県と県民との双方向コミュニケーション」が活発に行われ、両者の確かな信頼に基づく連携や協働の取組が促進され、県民一人ひとりの夢や願いが着実に実現される「県民主役の県政」が進められています。
- ◎ 広域職員研修に参加し、広域的な視点も備えた職員が、県民ニーズに応じた、自立的で活気ある施策を積極的に展開しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 不断の行財政改革に取り組み、組織のスリム化を進めつつ、効果的、効率的な県政運営を行うとともに、新たな時代の徳島を実現するため、より一層の行政能力の向上を図るなど、これまでの改革の歩みを止めることなく、その着実な推進を図っていきます。
- ◎ 公債費について、本県の財政規模に見合った妥当な水準とするため、今後も県債の発行額を抑制し、実質的な地方交付税である臨時財政対策債を除いた県債残高、県民一人あたりの県債残高を減少させます。
- ◎ 多様な県民ニーズや行政文書の電子化等の時代の変化に対応して、さらなる公文書公開制度の充実を図ります。また、県政の諸活動に関し、県民に対する説明責任を全うするため、積極的な情報提供の取組を進め、情報公表制度の充実を図ります。
- ◎ 県民との意思疎通を図りながら、県民と一緒に県政をつくるために、各種広報媒体を活用し、積極的かつきめ細やかに情報提供するとともに、知事と県民との対話などを通じていただいた提言を積極的に県の事務事業に反映します。
- ◎ 関西広域連合が行う広域職員研修に参加し、職員の能力向上と人的ネットワークの形成を図ります。